

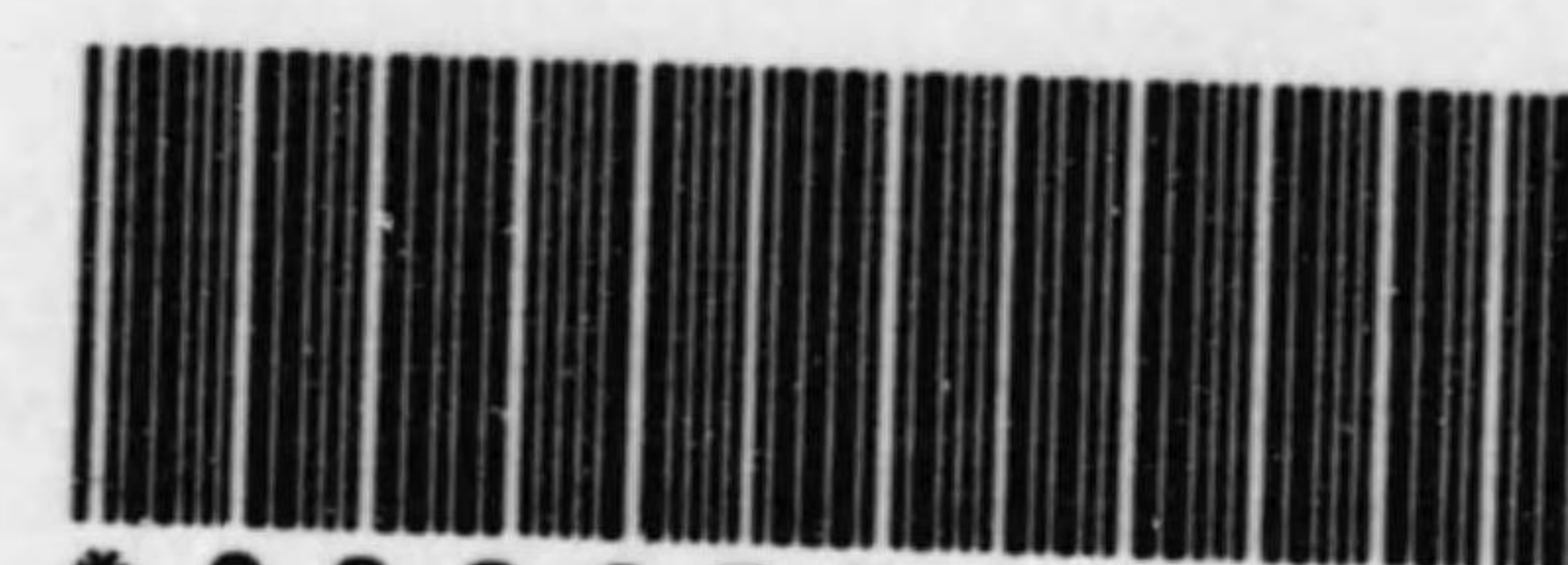
# 争議対策

福島康文著

雑誌・産業人社

特249

91



\*0036784000\*

2

0036784-000

特249-91

争議対策

福島康文・著

問題通信社

昭和12

AGF

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月23付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

765

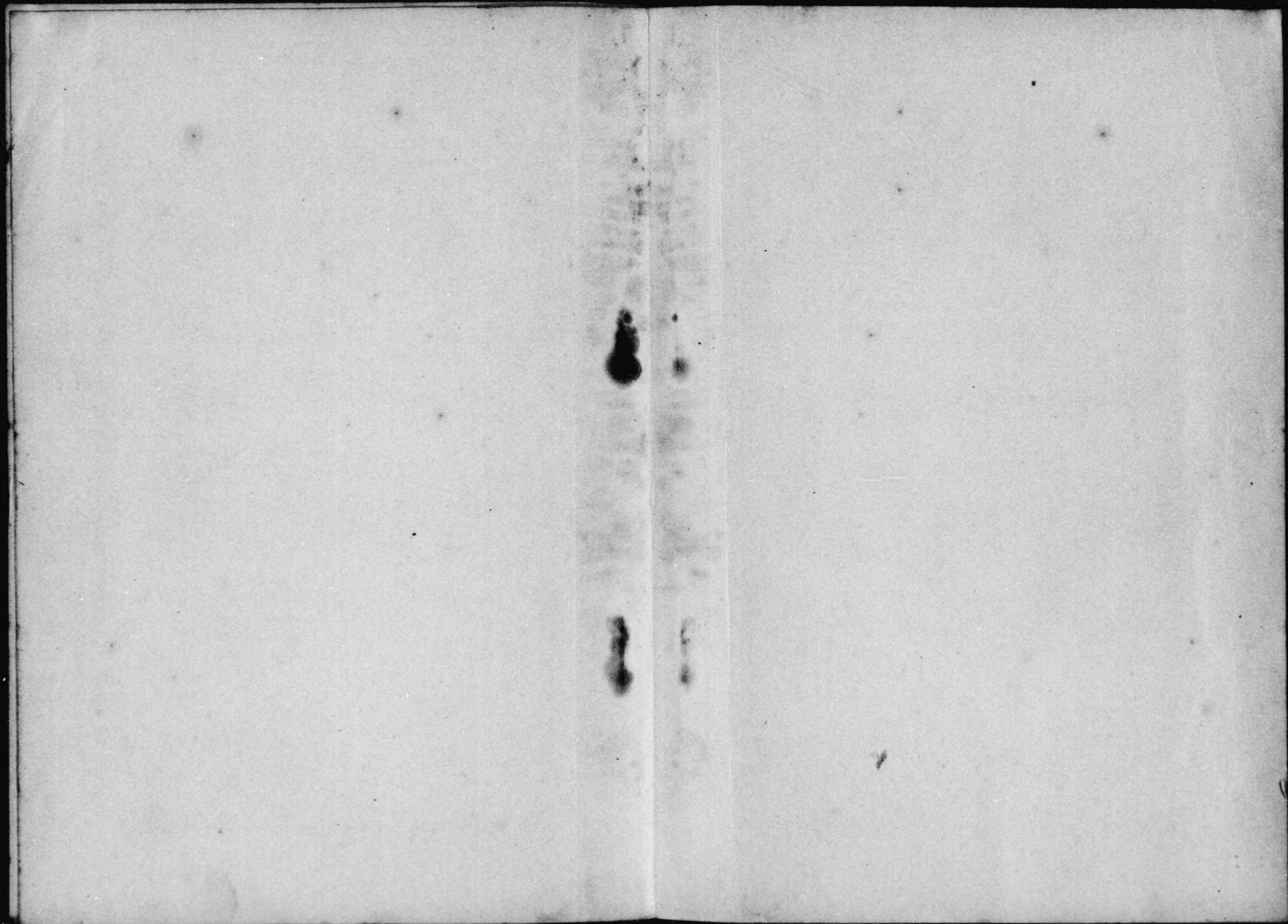
# 爭議對策

雜誌・産業人社

福島康文著

775  
特249

91



特249  
91

爭  
議  
對  
策



雜誌・産業人社

福島康文著



争議對策



藤田 泉 著

藤田 泉 著



序

私が企圖したもの、私が念願するところのもの、それは單なる争議對策と云つた抹消的問題ではない。究竟するところ、争議對策の根本は、勞資をその生産に於ける本來の關係に復歸せしむるにある。では、勞資はその生産の根本に於て對立するものであるか、或は融合一體となるべきものであるか。

私は勞資の融合は本質的なものであることを信ずる。何故なら、生産の根本に於て勞資の對立は有り得ないし、又、對立を前提として生産は成り立たないからである。

では勞資の現在の止揚は、その生産に於ける本來の姿への復歸は如何にして可能であるか。それは勞資相互の叡智と、善なる意志に課せられた喫緊の命題であらねばならぬ。

日本の、取舵一杯の轉換を前にして、今やその事は、國家の産業的發展の劇しい意欲であり、切實な要求でもある。

昭和十二年七月

著者

◇産業の興隆及び事業運営の上から、有効にして合理的な労働対策の必要である事はいふまでもない。従つて、今日此の方面に於ける文献は、一々之を挙げるの煩に堪ない程であるが、本書は問題を聊か異つた視野と角度から取扱ひ、特に「争議対策」の實際に重點を置いて、此書を物した次第である。

◇従つて「争議対策」の眞諦は、事前に於ける対策、即ち平常に於ける勞務管理の整備徹底にありとの見解から、勞務管理の領域に聊か言及を試みた。

◇更に争議対策の必要上、之と密接な相關を係にある労働組合の實情を傳へる爲に「日本労働運動小史」を附録として巻尾に附した。

◇斐文疎辭、加ふるに小冊子のため充分意を盡し、思ひを展べ得ない點を遺憾とする。他日版を改めることがあれば十全を期する次第。

(目 次)

◆争議対策

労働運動の必然性	………	一
労働争議と労働組合	………	二
主要労働組合の争議方針	………	三
△日本労働組合會議	………	
△日本労働組合全國評議會	………	
△國家主義系労働組合	………	
△日本労働組合同盟	………	
△全國組合同盟	………	
△日本労働組合總聯合	………	
労働争議の性質形態	………	一〇
労働争議の實情	………	一一
争議対策の種々相	………	一四
(1) 争議の動因	………	一四

(2) 爭議對策の根本……………一五

(3) 某労働運動者の體驗談……………一六  
 △先づ不平分子から手を付ける △臨時工の不安につけ入る △班會を利用し  
 て不満の具體化へ △一枚の漫画が導火線となる △爭議陣容の整備 △爭議  
 團の爭議戰術 △爭議の結果

(4) 事態を過少評價しない事……………二三

(5) 事態の敏速且つ正確な調査……………二四

(6) 爭議團の力……………二五

(7) 爭議と會社組合の組織……………二七

(8) 爭議に於ける文書戰……………二八

(9) 爭議に於ける中心人物への對策……………二九

(10) 爭議と敲首……………三〇

(11) 爭議の再燃……………三一

(12) 爭議團に接する態度……………三二

◆勞資融合の根本基調

勞務管理の根本精神……………三五

労働生活の向上と労働組合……………三九

工場委員會の理論と實際……………四三

共 愛 會……………四五

工 友 會……………四九

◆労働運動の沿革並現勢

- △發生時代
- △沈潜時代
- △復活時代
- △サンヂカリズム時代
- △サンヂカリ
- △ズム凋落時代
- △ボルセビズム發展時代
- △極左潜行時代
- △國家社會主義擡頭時代
- △日本主義労働運動の擡頭





戦術は、時の勢により、殊に資本主義そのものへ情勢如何によつて種々に變化するには相違ないけれども、運動そのものは絶対に消滅するものではない」と言つてゐる。

労働組合運動の是非の論議に至つては、その異つた見地と立場から、相當異論を抱く人もあるであらうが、現經濟機構の下に於ける労働組合運動發生の必然性といふことに對しては、或程度まで認めざるを得ないであらう。

### ◆労働争議と労働組合

労働組合と言つても種々の分野があり、其の主義主張も夫々に異つてゐる。

従つて、其の労働争議に對する態度も自ら異なるものがあるが、滿洲事變以來擡頭した國家主義乃至國家社會主義運動の興隆と共に、労働運動界全般に其の指導方針の轉換を來し、嘗ては旺盛を極めた、謂ゆる闘争主義の運動方針は次第に緩和せられて、漸次穩健な産業協力主義に轉換して來た。其の結果、争議に對しても謂ゆる激發主義は衰退して、一般に最少化の方針を實行するに至つたやうである。

従つて労働組合の労働争議關與關係は、昭和六年までは年を遂ふて増加しつゝあつたが、昭

和七年以降は著しく減少の傾向を示してゐる。この原因は、固より一、二止まらないであらうが、要するに滿洲事變を一大轉機として、我國の社會情勢は著しく變化を見た。就中、上述の如く國家主義乃至國家社會主義の勃興が、一般労働者の思想及び労働運動の方向を轉換せしめたことは洵に甚大なものがあつたと共に、輸出向産業や軍需工業を中心とした事業界の一部の好轉とは相俟つて、労働争議の上に鋭敏に反映し、七年以降は争議の減少を齎したものの様である。確かに労働争議は、こゝ數年來減少の傾向を辿つてゐるが、さればと言つて、是を以て一般に争議が不振となり、労働争議が翦滅するものであると斷ずるのは早計である。果せる哉、最近、軍需インフレの影響を受けて、異常なる物價の昂騰を見るや、労働争議は再び騒然として各所に頻發し、本年に入つてから早や記録的な件數に上つてゐる。

### ◆主要労働組合の争議方針

労働組合の争議方針が、著しく轉換を見た事は上述の通りであるが、左に其の主要労働組合の争議方針を略述して見やう。

### ◇日本労働組合會議

組合會議は、労働爭議に對しては爭議の放任主義を戒めて、罷業の統制を圖り、持込爭議（同組合關係以外の）に就ては「原則として拒絶すべきが妥當である」と決議してゐる。然して、個々の群小爭議に精力を消耗するよりも、寧ろ平時に於ける産業協力の意を用ふべきであるとして、労働協約、労働懇談會を通じて、労働爭議の最少化、或は産業協力運動の徹底化等に努めてゐる。尙將來爭議を誘發せしめ易き臨時工及び人夫制度に對しては、九年度大會の決議に従ひ、臨時雇制度廢止要求の陳情書署名運動を起し、或は宣傳ポスターを作成し、演說會を開催する等、大いに世論の喚起に努むる所があつた。

### ◇日本労働總同盟（現全日本労働總同盟）

日本労働總同盟は、昭和七年度大會に於て、從來の綱領は社會情勢及び組合の實情に即せざるものとして、労働組合主義に基く穩健なる綱領に改め組合の爭議に關する方針としては「極力罷業を避け、平和的交渉に依つて解決することに努め、罷業最少化の方針」を執り、よつて以て、組合の闘争費を減少せしめ、建設的方面に活用する方針であることは現在に於ても變り

なく、更に其の徹底に努めつゝあることは、表により一層認識を深め得るであらう。

### ◇日本労働總同盟と同盟 罷怠業工場閉鎖との關係

年次	件數	人員
昭和2年	37	9.034
同 3年	68	8.736
同 4年	120	10.603
同 5年	73	7.499
同 6年	109	7.406
同 7年	87	7.385
同 8年	53	5.831
同 9年	63	3.748
同 10年 (9月)	38	2.697

### ◇全國労働組合同盟（現日本労働總同盟）

全國労働組合同盟は、創立以來謂ゆる闘争激發主義を持続してゐたが、昭和八年來、其の運動方針を稍緩和し、組合の主力を漸次、共済機關の設置に注ぐ事となり、全勞本部に於ては聯合會、組合と協力の下に共済的機關の新設又は擴大充實に努力して來た。東聯常任共済會の設置、又は共済規約の實施など相當見るべきものがあつた。其の結果爾來、その關與爭議は表の

◆ 全國労働組合同盟と同盟  
罷怠業工場閉鎖との關係

年次	件數	人員
昭和2年	24	4,757
同 3年	19	2,112
同 4年	45	4,547
同 5年	175	15,004
同 6年	239	13,862
同 7年	156	6,976
同 8年	72	3,474
同 9年	44	3,574
同 10年 (9月)	35	4,507

如く著しい減少を示してゐる。

◆ 日本労働組合總聯合

近來指導方針を轉換し、國家主義に接近したる總聯合は、十年九月組合同盟を脱退、同十一月の大會に於て綱領規約等を改正し、愈々日本主義労働組合の旗幟を鮮明にした。其の宣言の中にもある如く「我等は對者の飽くなき挑戦に對しては、敢然として立つの決意を有するものであるが、對者の力關係に於て、我等の産業報國の精神を左右すべきではない。即ち、日本の

◆ 日本労働組合總聯合と同盟  
罷怠業工場閉鎖との關係

年次	件數	人員
昭和5年	38	4,576
同 6年	59	3,812
同 7年	44	1,898
同 8年	22	836
同 9年	13	318
同 10年 (9月)	3	612

産業のため日本人として融合することである。此の實施のために唱へる産業協力は、その如何に關せず、先づ實行への努力をなすべし」との心構へを支持するものであるとして爭議に對しても努めて之を回避し、平和的に解決せんとしてゐる。従つて、其の關與爭議件數は漸次減少の傾向にある。

◆ 日本労働組合全國評議會

比較的左翼的色彩の濃厚な日本労働組合全國評議會は、其の主張する所は階級闘争主義であ

るが故に、争議に對しても積極的態度を持してゐるけれども、結成未だ年餘の本組合の陣容不整備と、今日の我國の客觀情勢は本組合の活動を甚だしく索制してゐる。本組合十年度大會報告書中にも争議に就て「我全國評議會は、全国的に重要なストライキを一つも持たなかつた。五百人以上の巨大工場の手切り、待遇改善を相當に戦つたが、孤立したり壓殺されたりした。が、同時に工場内の部分闘争として誇るべき指導を見せたのも尠くはない。此の事は我々の陣容が整備充實といふ對内運動に向けられてゐた爲であつたのと、今一つは巨大な工場の大衆を指導する主體的勢力に缺けてゐることを指しななければならぬ」云々と述べてゐる。昭和九年に於ける本組合關與争議件数は、二二件（参加人員六四五人）であつて、十年九月末迄は二五件（参加人員六一二人）に過ぎない。

### ◇國家主義系労働組合

國家主義の労働組合が、労働争議の發生を防止せんとするのは、其の主張よりして當然のことであるが、愛知縣下に於ける純正日本主義を標榜する労働組合が、同地方の電燈争議を簇生して大いに社會の耳目を惹いた。今その愛國従業員組合の争議方針を示せば次の如くである。「争議の本質が、組合そのもの、利己的利益増進であつてはならず、會社の代表機關會社經

營の方向を、皇道精神の還元を目標として戦ふべきであり、經濟問題は之に附隨する第二次的のものであらねばならぬのを建前とする以上、純正日本主義の争議の結果に對しては、勝敗を云爲するが如き筋合はない筈である。お互が自覺したか何うか、問題であるのみで、自覺は勝利でもなければ、又、敗慘でもない。専らなる國家繁榮への念願であり、要は國民としての覺醒を求むる聖争議に外ならぬ。否、常に争議に入らないやうに努力すべきであり、怠らず會社を自覺せしめるやうに努力することだ。然しながら、一旦決意して立ち上つた以上は、勇士の戰場に於けるが如く、其の目的達成のためには、戦死も敢て辭せないところの國への奉仕でなければならぬ」云々と述べてゐる。

尙、日本主義労働組合の結合團體である日本労働倶楽部の「行動方針」中、労働に關する條項の一及び四に於て斯う言つてゐる。

(一) 勞資の職分は、産業上の秩序たるに鑑み階級的偏見を去り融合以て産業の開發に努むべし。

(四) 労働條件の無條件的維持改善を排し、其の公正を期すべし。  
以て日本主義労働組合の争議方針の如何を察知することが出來得るであらう。

## ◆労働争議の性質形態

由來、財界の好況時に於ては、労働争議の性質も賃銀増額等の積極的要求が多く、不況時には、賃銀減額反対等の防禦的消極的要求が増加するのを例としてゐる。

即ち昭和七、八年來、軍需工業の股賑と一般産業界に於けるインフレーションの進行と共に争議の上に賃銀増額を中心とする積極的要求が増加したが、九年の如きは特に著しく、賃銀増額を要求したものは、総件数では六二二件三三%を占めてゐた。この後を受けて十年度は、争議件数一、八七二件中、賃銀増額を要求したものは、四八四件約二六%であつて、昨年に比し稍減少してゐるが、それでも絶對的に多數を占めてゐる。

然るに賃銀減額反対の消極的防禦的要求は、九年度總件数中七八件約四%に對して、十年度は一四二件約七、六%に相當し、比率の上では倍加してゐる。

労働争議の内容形態に就て、これを明確に分類する事は、各々争議發生の外部的或は内面的事情が交錯し、又複雑化してゐるために甚だ困難であり、無理な企てであるが、便宜上左に分類して見よう。

▲財界の好況不況に従ひ賃銀増額又は減額反対等の攻勢的乃至防禦的争議

▲社會革命達成の手段、又は労働者のための法案要求等の政治上の目的より爲さるゝ争議

▲他の工場礦山の争議に對し、應援又は同情罷業をやる場合の争議

▲當面の經濟的要求に因らず人事其他の感情問題が原因となる場合の争議

更に、之等の争議に對する労働組合の關與關係は

1. 労働組合が主體となつた争議。

2. 労働組合が全然關與しない自然發生的争議。

3. 自然產生的な争議に、労働組合が後から連絡を付けたもの、或は又、その指導應援を労働組合に持ち込んで行つた謂ゆる持込争議。

等に分類され、又、之を指導應援する労働組合の指導精神の左右によつて、穩健か過激か、建設的か破壊的か、その争議の色彩も大いに異つて來る。

## ◆労働争議の實情

労働組合が、階級的闘争團體として活躍する時、産業界は闘争の戦場として荒され、幾多の労働者は遂に窮迫して暴行強迫等の不法行爲に出で、或は刑餘の人となり或は職を失つて悲惨な境遇に陥る場合がある。我國に於ける極左系労働組合の禍害は、寧ろ外國に超へるものがあると言はれてゐる。假令、労働組合の力に依て労働者の雇傭條件が改善さるゝものがあつたとしても、その得る處と比較して、其の拂ふ犠牲の程度が餘りに大きいものであることを知らねばならぬ。

労働者の組合加入は、往々にして強制さるゝ場合がある。そして労働者が労働組合に加入すると、謂ゆる團體の威力、結束の力といふものを過信し、又その労働組合が、階級的闘争精神に充ちてゐることに刺戟されて、直ちに雇主に對して反抗的態度に出て來る傾向がある。昨日まで穩順であつた職工も、今日は反抗的職工となり、上長を侮蔑し、規律を無視し、仕事の能率は低下する。仕事に忠實ならずして組合に忠實となり、大小の事を頻々として、雇主に強要するやうになる。かゝる闘争的組合分子を擁する會社工場は、常に之に惱まされて能率は擧らず、事業成績は漸次不良となる。斯くして宿弊の積るところ、遂に争議を勃發せしめ、惡戦苦闘の末、雇主に多大の損害を蒙らしめると共に、労働者も亦、多大の傷手を受け、悲惨な結果を告ぐるものも決して尠しとしない。

労働争議の實際を見る時、争議は労働者の労働條件の維持改善を圖る爲といふよりは、寧ろ労働組合が其の勢力の擴大強化乃至は組合の衰勢の挽回を期することを目的とするか、或は又労働組合がその主義主張の宣傳實行のため、計畫的に起されるものが甚だ多い。従て労働争議の大多數は外部労働組合の煽動と、工場内の少數組合分子の策動により、多數労働者の意志を蹂躪して、無理に強行さるゝ場合が多いのである。

例へば、左翼民主々義的労働組合は「急速に戦闘化しつゝある労働大衆に對する日常闘争の激發、就中、主要産業に對する計畫的争議の遂行による未組織大衆の獲得」を組合の方針と定め「自然發生的争議は、急速に意識形態（階級闘争）へ轉換せしめ、争議は其の大小を論ぜず凡て政治闘争への轉向を計るべし」といふやうな指令を發してゐた。

又、極左労働組合に至つては「アヂ、プロによつて各工場の不平不満を爆發せしめ、發生した争議を産業別、資本系統的、全地方的ゼネラル、ストライキの方向にむけしむる方針の下に活動し」争議をして、宛然、革命運動の豫行演習の如く取扱つてゐたのである。

争議と言へば、多くの場合暴行強迫が付物である。争議は被傭者たる労働者が、其の雇主と争ふばかりではなく、時として無關係な労働組合員が、指導又は應援に來て暴行強迫を行ふ場合がある。暴行強迫は労働者の同僚に加へられ、雇主及び職員に加へられ、其の家族、時とし

ては何にも知らぬ頭是なき小兒に迄加へられる事さへある。然も其のことが争議を有利に轉換解決せしめんが爲めの矯激なる戰術的行爲として行はれる場合すらあるのである。

### ◆争議對策の種々相

#### ◇争議の動因

争議は労働者の労働条件の維持改善といふ經濟的要求の爆發であるが、然し、其の經濟的要求が其のまゝ直線的に發展して争議化する場合は甚だ少ない。

問題の根柢となるものは、經濟的要求であつても、その動因となるものは勞資間に意志の疏通を缺き、從て、勞資の相互的理解と同情の缺乏に胚胎するものが甚だ多い。殊に直接、従業員に接觸して、監督指導の任に當る上司監督者達の従業員に對する其の仕事上の「態度や使ひ方」といつたものは、非常に従業員全般の仕事上の能率に影響すると共に、よく經營者に對する不平不満の導火線となるものである。一二の上司監督者に對する不平不満が鬱積して、遂に經營者に對する待遇上の不平不満にまで轉化發展して争議化した事例は決して尠しとしない。

從つて、直接従業員等に接觸して、其の仕事に監督指導する上司監督者の仕事上の「態度や使ひ方」といつたものは最も大切であつて、常に公明なる態度を以て臨むと共に、理解と同情ある心構への下に接しなければならぬ。

然し、此の事は獨り上司監督者に對してのみ求むることは無理であつて、經營首腦者達の勞務管理上の精神が先づ其の方向に向はなければ駄目である。

#### ◇争議對策の根本

争議對策の眞諦は、その事前の對策にある。事前の對策とは、即ち、平常に於ける勞務管理の整備徹底である。既に争議が発生してからの對策は、謂ゆる泥繩式對策の誇りをまぬかれな

い。然し、既に争議が発生した以上は早速に之に對して適確なる對策を立てると共に、機宜の處置を講じなければならぬ。即ち事態の擴大を出来るだけ小範圍に、被害の程度を出来るだけ最少限度にするために、更に進んでは徹底的に其の禍根を除去するための積極的な對策も講じなければならぬ。

だが然し、策を講じて徒らに之を防止し壓迫するが如きことは、心ある事業經營者のなすべ

き業ではないであらう。既に自家に争議が発生するといふことは、よし其の争議が外部の労働組合や、内部の不平等分子の策動に基くものにして、其處に經營上、又勞務管理上多少の缺陷落度ありと見て深く自省すべきである。然して、不満の要求を持つ従業員達に對しては、出来るだけ工場の業態並に方針を理解せしめると共に、相手を乗せしめぬ斷乎たる態度心構への中にも「聞くべきものは聞き、入れ得べきものは入れてやる」といふ穩威並びに行ふ理解と襟度ある態度が必要ではなからうか。

只、被傭者としての彼等が、結束して反抗的行動に出たといふ一事に拘泥して、聞くべきものも聞かず、入れ得べきものも入れずして、飽くまで對抗的になる事は、徒らに事態を險惡化して兩者の損失被害を大きくするのみである。

### ◇某労働運動者の體驗談

此處で筆者は、争議の指導者達が如何にして争議を起したかといふ事實に就て、左に某労働運動者の體驗談を簡単に紹介して見よう。

◇先ず不平分子から手を付ける

「當時、某左翼労働組合のオルガナイザーとして活動してゐた私は、組合の組織擴大のため

に、私の關係してゐた某工場に、待遇改善の問題を惹起せしめて一舉に組合員を獲得すべく委員會に於て指令された。當時その工場内には既に私の思想的影響下にある者が五六名ゐた。何處の會社工場にも、何事によらず不満を抱き不平を唱へる謂ゆる不平分子といふ連中が必ず居るものである。私は先づ斯ういふ連中から手を付けて行つたが、殊に其の連中が多少頭腦的であればある程、容易に階級的な組合の主義主張に引込まれていつた。資本家といふ存在を頭から否定して、階級的闘争心を煽る左翼労働組合の理論は、年若い不平分子にとつて、實に食ひ付き易い好餌であつた。

◆臨時雇の不安につけ入る

當時、その工場には約三十名餘りの臨時雇が居つた。この臨時雇の問題は今日各労働組合が労働條件を低下せしめ一般労働者の生活を脅かす「昭和の奴隷制度」なりとして擧つて反對してゐるが、この臨時雇制は非常に争議勃發の誘因となり易いし、又、労働組合が其の根を下す上に最も都合のいい肥沃豊饒の土地でもある。

臨時雇は(一)何時でも自由に解雇され(二)健康保險の被保險者から除外され(三)期末賞與退職手當等の待遇が劣悪であり(四)本傭有無の不明等々の特殊の事情から、常にその生活が不安で不平不満の状態に陥り易い。



臨時雇の斯うした生活上の弱點や不安に巧みに付け入つて「事ある場合には労働組合こそ諸君の最大最強の要塞であり、唯一の力強い相談相手である」と機會ある毎に宣傳し、遂にその殆んど者を組合に引入れて終つた。

#### ◆ 班會を利用して不満の具體化へ

或會社なり工場なりに、労働組合の組織の根をおろし、又、労働争議を起さうと企圖する場合には、その工場の従業員諸君が、労働条件其他に對して「如何なる不平不満を持つてゐるか」といふことを知ることが最も必要である。即ち、其の工場の従業員達の具體的な不平不満を知らなければならぬ。そして其處から先づ手を付けて行く。

當時、その工場に於ける當面の仕事上の不満としては、残業の場合に於ける賃銀の割増要求があつたが、恰度盛夏の頃で仕事に對する疲労が甚だしいので大多數の者は残業反對を主張してゐた。それから或一二の上司監督者の言動に對する感情問題があつた。私はかねて組合分子と此の事に就て協議し、組合員の最も多い班に相當アジ（煽動のこと）を利かして置いたが、或日の班集會の際、かねて打合せして置いた組合分子に之等の問題を持ち出させ、班内の輿論を巧みにリードして、遂に班會に於て待遇改善の問題を取り上げさせるや直ちに労働条件其他の不满を、數ヶ條の條文に具體化して終つた。そうして他班内の組合分子と

連絡を取り、條文として具體化された労働条件其他に關する要求條項を、各班に廻附して従業員全體の輿論を煽つた。

斯くして莫然たる従業員の不平不満は、此處に始めて具體的な形態を取り、一つの方向に向つて發展して行つた。此の場合注意すべき一つの現象は、従業員の大多數の者が待遇改善問題に劣らぬ關心を持つて、或一二の上司監督者に對する感情問題に附和雷同した事であるこの人事に絡む感情問題は、多くの労働争議の場合よく附隨する問題であつて、經營者として大いに考ふべき一事である。

#### ◆ 一枚の漫畫が導火線となる

奔流が正に堤防を切らんとする場合に於ては、僅かに小兒の力でさへ之を決潰し得る。工場内に於ける不平不満が、従業員の胸の中に漲り溢れて來た時、それは一寸したキツカケで大きな問題、即ち争議へと轉化發展して行くものである。

或夜私は竊かに工場内に忍び込んで、かねて用意して置いた一枚の漫畫を貼付して置いたそれは四肢枯瘦した一人の労働者が蹠跟として一つの大きな石塊を抱き上げてゐる構圖のもので、其の石には「殺人的殘業」と書き、更に「諸君は倒れるまで此の石を持つてゐるといふのか」と傍書して置いた。翌朝になると、出勤して來た従業員達がワイ／＼騒ぎながら此

の漫画の周囲に集り、中には残業手当を増額しろ、残業絶対反対など、大聲で叫び出す者もあつた。斯うなると謂ゆる群衆心理といふものが働き出して、日頃冷靜穩順な者まで、次第に昂奮の渦中に巻き込まれて行つた。聽て監督者が飛んで来て漫画を剝ぎ取つて行き、容疑者と睨まれた數人のものが、事務所に連れ込まれて糾問されるに及んで、騒ぎは愈々本格的となり、其の夜、遂に仕事が終わつてから各班は班會を開き、更に翌日は各班の代表委員會が開かれて、其處で先づ交渉委員が選ばれ此處に愈々労働爭議の序幕が切つて落された。其の間に於て、内部の組合分子は背後の労働組合と緊密な連絡を取り、巧妙な暗躍を續けた事はいふまでもない。

#### ● 爭議陣容の整備

全従業員の結束と反抗に狼狽した經營者側は、第一回の交渉に於て早くも相當の讓歩的態度を示し、要求條項の何ヶ條かを容れたが、勢に乗じた爭議團は要求條項の全的容認を固執して譲らなかつた。

此處で私は爭議に入つてからの複雑多端な経緯を逐事的に話してゐては際限がないので要點だけ簡単に述べやう。

固き團結と組織ある統制力とは、爭議團の唯一無二の武器であり力である。故に目的の貫

徹のために、又經營者側の切崩しや軟化工作に備へるために、一層緊密な結束が要求される先づ工場内の各班を單位として各種の必要な爭議委員が選出された。爭議團本部が定められ爭議基金が募集された。内部の軟化や裏切りを防止し、外部からの暴力的壓迫や切崩しに備へるために、各班の腕ツ節の強い者が選ばれて警備隊が組織された。爭議團に對する組合の指導と統制の強化徹底のために、内外の組合分子によつて秘密な特殊の會合が持たれた。此處から爭議に關する一切の指令が發せられ、日々の情勢に應じてヒツキリなしにアジ、プロのピラが撒布された。かくて各自が定められた各々の部署につき、此處に爭議團としての有機的な統制ある活動が始められた。

#### ● 爭議團の戰術

爭議は一種の戦争と見做して、既に戦争がある以上、其處には當然戰略戰術が規定されなければならぬ。此の場合に於ける戰略は要求條項の貫徹と労働組合の組織を植へ付ける事であつた。戰術は戰略のための個々の場合に於ける戦ひの方法である。然して戰術は彼等の情勢如何と、相互の力關係によつて定められる。相當の財力を擁する經營者側と、裸のままに結束してゐる爭議團の力とを比較測定する場合、如何なる角度から眺めて見ても到底五角の力とは思へない。假りに七三の力關係と見る場合、まともな正攻法の戰術ではとても勝

つ見込みがないことが判る。其處で争議團獨特の恥も外聞も見榮も振り捨てた、あらゆる合法非合法の戦術が次から次へと採用される。怠業や罷業は其の代表的なものである。又愈々情勢が切迫すれば、工場を占領して争議が有利に解決するまで座り込み戦術をとつたり、或は重役の私邸に押しかけて、謂ゆるヘタリコミをやつたりする場合もある。或は又、不参加従業員を引入るゝために、工場門前附近に見張りを配置して従業員の出勤を阻止し、又、隊伍を組んで工場の周囲や街頭を示威運動して氣勢を挙げたりする。其の他一々例を挙げてゐては枚擧に遑がない。

かゝる争議團の行動を目して、目的のために手段を選ばぬと非難する人もあるが、手段を選んだ謂ゆる紳士の闘争では勝つ見込みがない。其の觀念的な是非の問題は兎に角として、労働者の最後の強みは結局固き團結と、見榮も外聞も振り捨てた捨身の強さにある。

兎に角我々は約二週間の間、前述の如き有らゆる戦術を用ひ手段を盡して、刀折れ矢盡くるまで文字通り悪戦苦闘を続けたのであつた。

#### ◆ 争議の結末

かくて有りとあらゆる戦術を用ひ、手段を盡して悪戦苦闘した争議の結末がどうなつたかといふと、遂に二十八名の敵首犠牲者を出した上に、三人の尖鋭組合分子は傷害並に器物破

毀の罪名の下に刑餘の身とまでなつた。そして僅かに要求條項の二三が容れられたに過ぎない。其の得たる處に比し、兩者の失つた損失被害の程度は餘り大きかつた。然も其の容れられた要求條項が、最初の交渉に於て工場側が譲歩した程度と少しも變らなかつた事實を見た時「嗚呼何の爲の永い間の悪戦苦闘であつたぞ」と、思はず長嘆息を發せざるを得ないものがあつた。

が然し、それは一般争議團員から見だところの偽らざる嘆息であり、慘めな追懐であつて組合指導者から見た時は自ら又別なものがあつた。何故なら、労働組合側の根本方針は、單なる従業員側の労働條件の改善ではなく、實に、労働組合の組織の擴大強化といふ一點にあつたからである」(終)

#### ◆ 事態を過少評價しない事

従業員は常に經營者に向つて、何かを要求する氣持を持つて居り、従つて兎もすれば不平不満の状態に陥り易い。殊に従業員の大多數が不満の状態にある時、一人の急進分子の煽動的な不平は相當の力を以て多數者の心を動搖させ得るものである。のみならず、その一人の急進的な不平分子が個々の單なる孤立的存在でなく、背後に労働組合との關係を持ち、その一員とし

て不穩な使命を持つ組合分子である場合、それは一人の動きと雖も實に恐るべきものがある。時を得ば蚊龍雲を呼ぶ如く、機會を掴めば一人の急進組合分子の巧妙な策動は、往々にして争議を惹起せしめ、經營者に對して不測の禍を蒙らしめるものである。少數の不平分子の動きに對して「彼等何するものぞ」と、不穩の情勢を過少に評價した爲に、遂に争議にまで發展せしめて終つた事例は尠しとしない。

緊密に組織統制された數人の力は、時に組織統制なき數百人の従業員を、自由に使驅し得る力のあることを知らねばならぬ。

### ◇事態の敏速且つ正確な調査

經營者として従業員の仕事上及び其他凡ての状態に對して、常に注意と關心を持たなければならぬことは勿論であるが、特に従業員の待遇に關する不平不満や、それに基く不穩の動きに對しては、如何に小さな動きでも看過してはならない。若しそつういふ事態の發生を感知した場合には、敏速正確に事態の真相を調査する必要がある。有効機宜の對策は、その早期に於ける程効果があることはいふまでもない。

某工場の如きは、數百の従業員が一致して待遇改善の要求條項を呈出するまで事態を放任し

てゐた爲に、不用意にも其の虚を突かれ、止むを得ず一時無理な讓歩をして永くその禍根に苦んでゐた。

工場内に不穩な事態の發生を見た場合には、先づ左の事項の調査が急速になさるべきである  
一、事態發生の原因並に動因 二、不平不満の内容性質 三、主動的人物 四、背後の労働組合關係並にその系統 五、組合との連絡の状態並に組合員數 六、動搖影響の程度等々。

労働組合が關與してゐない場合の争議は、従業員の労働條件の維持改善のみが直接目標として戦はれるが、労働組合が指導乃至應援する場合は、何うしても労働組合の組織の根を植へ付けるとか、或は組合組織の擴大強化といふことが加味されてくるので、それだけ又、争議關係が複雑化して来る。組合の系統を知ることが、その組合が左翼系か乃至日本主義系かに依つて、國家産業に於ける勞資の關係並に其の地位に對する觀念が根本的に異り、従つてその争議方針も大いに逕庭があるからである。

### ◇争議團の力

「萬國の労働者よ團結せよ、然してその得るものは全世界にして、失ふものは鐵鎖のみ」とは、かの有名な共產黨宣言の結語であるが、労働組合の指導者達も亦、何物も持たない労働者

にとつて固き團結こそ唯一無二の武器であり力であると強調する。然して争議に於ける争議團の力も、結局は多數の結束の力と、統制ある行動のみにある。

従つて彼等の團結が崩壊し、統制が紊れた場合、即ち彼等の力が分散された時に於て争議は敗北の外はない。其處で經營者側は争議團の結束を紊し、其力を四分五裂さすべくイロんな手段方法を講じる。恰度一本の樹木の葉をむしり取り、小枝を折り、中枝を落して、遂に幹ばかりの裸木にするやうに、一番抵抗力の弱い穩順な分子から一人一人中心の指導分子の影響下から引離して、指導分子をして孤立せしめやうとする。これが彼等にとつて一番恐しい攻撃である。如何に尖鋭な指導分子でも、支持大衆を失へば最早無力である。その巧妙にして執拗な戦術も、威脅的な言動も最早その力を發揮し得なくなる。故に團結と統制ある行動を唯一の武器とする争議團側では、その目的の貫徹のために、又、經營者側の切崩し等の攻撃に備へる爲にもより一層の結束が要求される。

嘗つて日本共産黨が潰滅に瀕したのは、警視廳のマークの入つた共産黨員が出来た爲めであるとさへ云はれてゐる。集團的な存在が、その統制力を失ひ、内部對立を生じて互に疑心暗鬼の状態に陥れば、遂に崩壊の一途を辿るより外はない。

### ◇ 争議と會社組合の組織

争議が勃發して勞資間の激しい對立磨擦を生じた場合、經營者側の自己防衛の手段として、又は勞資の意志の疏通を圖り、その對立を防止するための組織として謂ゆる會社組合 $\parallel$ 労働組合が御用團體など、稱してゐるもの $\parallel$ を作る場合があるが、之は何れの意味に於ても非常に争議そのものを索制する上に有効な組織である。が然しこれを單に前者のみの意味に於て、即ち争議の場合に於ける經營者側の一時の防衛的なものとして組織し、争議後に於て其の發達と運用を顧みないならば、大きな禍根を残す場合がある。

即ち事後に於て、争議参加者と不参加團員との間に解けがたい不和、越へがたい溝渠を作つて人事の圓滿を缺ぐ基となるものである。故にそれは單に争議牽制のための一時的な組織としてではなく、勞資間の斯うした磨擦が往々にして勞資間の意志の疏通を缺き、従つて勞資の相互的理解と同情の缺如にあることを思ひ、勞資の融合調和を圖るための恒久的組織として作るべきである。

従つて其れは國家産業に於ける勞資の關係並に使命に對して、明確な認識も持つたものでなければならぬ（後章工場委員會の記事参照）この従業員各々の創意と自治精神を認め、之を充

分に發揮させる工場委員會の制度が有効に運用されてゐる工場に於ては、労働争議といふやうな勞資間の激しい磨擦を生じることが殆んど絶無といつて差支へない。

### ◇争議に於ける文書戦

争議に於ける文書戦は、争議團側の有力な武器の一である。争議の指導者達は一枚のガリ版刷りのピラによつて其の意嚮を争議團員達に傳達して、よく其の指導力を發揮する。文書戦は組合指導者達の最も得意とするところであつて、攻撃に防衛にガリ版刷りのピラを使つてよく戦ふ。又、情勢を巧みに捉へた一枚のピラは争議等の場合、時に偉大な力を發揮するものである。彼等の配布した一枚の有効なピラがキツカケとなつて、争議を惹起せしめた事例は決して尠しとしない。

此の文書戦に於ては、何處の争議の場合でも争議團側の獨壇上の觀がある。彼等の配布するピラは文體用語が非常に平明であり、然も従業員の利害に即して具體的に書いてゐるので、意識の低い従業員にもよく理解徹底する。之に反して時たま経営者側から配布する論告とか達示とか云つた文書は、内容が徒らに抽象的であるも文章用語が難解なため、これを受取つた一般従業員に充分理解されないやうである。

斯うした場合に於ける文書は何より情勢に應ずることが大切で、情勢の變化に應じて、文體用語まで變へる周倒さがなければならぬ。そして何より自己の主觀的な氣持に立脚しないで、相手の氣持や頭腦水準を充分意識して書くことが必要である。

争議の場合に於て経営者側は餘りに文書戦を閑却してゐる傾向がある。経営者側として何も争議團の向うを張つてヒツキリなしにピラを撒布する必要は更にないが、事態の變化推移に應じ、適切な文書を發行して時に彼等の妄動を戒め、又、経営者側の眞意を理解徹底せしむることには大いに必要な事である。

例へば労働組合が、階級闘争主義に立脚する其の本來の主義主張をカムフラージュして、戰術的に従業員のための一方的な利害のみを強調し、その利己心を煽つて争議の渦中に巻き込まんとする場合、之に向つて適切な警告を與へて従業員大衆を防衛することは、是非なさねばならぬ必要なことではなければならぬ。

### ◇争議に於ける中心人物への對策

争議を指導する労働組合、又は争議を指導する中心的人物が、右か左かによつて之に對する對策も自ら異なるものがなければならぬ。前項に於て、各派労働組合の争議方針を略述した如

く國家産業に對する觀念に於ても、左翼系労働組合と國家主義乃至日本主義労働組合との間には、根本的に相異なるものがあるからである。

従つて勞資關係を、只搾取被搾取の關係に於てのみ認識する階級闘争主義の労働組合分子が内外相呼應して策動してゐるのを早期に於て感知した場合は、之に對していち早く「斷」の處置を取ること、禍害を未然に防止する一つの方法であらう。「穩健に出て來れば」とか「二三の不平等分子何するものぞ」と、たかをくくつたり、逡巡したりしてゐるうちに、何時か争議を起されて多數の關係従業員を首の座に直さなければならなくなつた例は餘りに多い。

某工場に於て待遇改善問題の不穩な情勢が勃發しかけた際、筆者は背後の組合系統並に指導分子の顔振れを見て「現在の情勢を見通した場合、早く少くといふことが最も有効な處置である」と注意したことがあつたが、工場側では今からそれ程するにも及ぶまいと云つてゐるうちに大争議となり、結果に於ては三十何名かの誡首者を出した上に、物質的にも莫大な損害を蒙つたのであつた。

### ◇争議と誡首

争議に於て勞資間の磨擦が激烈であればある程、必ず相當の犠牲者を伴ふ。争議に誡首は殆

んどの場合付物と云つていゝ。

従つて經營者の體面上、又、事後に於ける社内の統制上、止むを得ず誡首しなければならぬやうな場合に於ては、その本人が果して被誡首者としての懲戒に相當するや否や、慎重に調査考慮する必要がある。結果的に見て「あゝいふ者まで切らなくとも」と思ふ場合が實際に於て屢々ある。不都合分子の誡首を機會に、其他の無能分子、老朽分子も傳手に始末するといふなら最早何をか云はんやであるが、只、事件の直接關係に於てのみ誡首する場合には、特に注意を要すると思ふ。經營首腦者としても人間である以上、認識を誤る場合もあらうし、又、こゝろいふ場合に於て嚴に慎まねばならぬ個人的感情といふ厄介者に支配されぬとも限らない。

或會社の争議の際、誡首された従業員の一人が子供を背負つた家内を同伴しながら「私は何故首になつたでしょうか、家内にも得心のゆくやうに話してやつて下さい」とオイ／＼泣ながら會社に尋ねて來たといふ笑へぬナンセンスもあつた。

### ◇争議の再燃

争議が經營者側の多少の讓歩により、表面上とにかく圓滿に解決を見た結果としてその跡に労働組合の組織が残つた場合、其してその労働組合が階級闘争主義の組合であつた場合、争議

は必ず早晚再燃するものと見て差支へない。

従業員達は、今まで自分達が無力な状態にあつたことを意識してゐるだけに、争議によつて始めて結束の力といふものを経験すると、今度は反対に自分達の勢力、又は組合の力に對する過重評價に陥るものである。そこへ持つて来て、その指導組合の理論が勞資の關係を只搾取被搾取の關係に於てのみ認識する、闘争主義の組合と來てゐるから、勢ひ従業員達は闘争的となり反抗的とならざるを得ないのである。此處に於て經營者側も遂にシビレを切らして強硬手段に出でざるを得なくなる。その場合經營者側としては、眞面目で穩健な従業員を出来るだけ多數に組合指導分子の影響下から引離しておけばおくれ程、それだけ事件の波紋擴大を防止することが出来る譯である。

或工場では争議後直ちに勞資の意志の疏通を圖り、その磨擦を防止する爲めの工場委員會を作り、其の巧みな運用の過程に於て組合分子の勢力を骨抜きにしたことがある。斯くの如く双に軋らずして工場平和の再建を圖ることは、何んと云つても對策の上乗なるものと云はなければならぬ。

### ◇争議團に接する態度

經營者並に關係職員として、争議團に接する場合の態度心構へには大いに注意を要するものがある。彼等の熱病的な昂奮状態や時には狂氣の沙汰とも目すべき常軌を逸した言動に吊られて、此方も亦感情的になり、若し自己を見失ふやうな事があれば事態を餘計に紛糾混亂させる惧がある。

特に争議團の代表者等に接渉する場合、時に傲岸不遜と見らるゝ彼等の態度は、多數を顧みでの、或は昂奮状態に於ける、又は平常に於ける上司に對する弱氣を意識しての擬似的強氣、即ち單なる強がりであつて、かゝる彼等の態度や交渉振りに引摺られて、此方も亦對等の氣持に出れば、圓滿な解決點を見出すことは愈々困難となる。

常に一步高い見地と廣い見解から、餘裕ある指導的態度の下に出来るだけ彼等が穩和に、又條理に基いて話すやうに仕向くべきである。某工場の争議に於ける交渉の際、其處の支配人が相手が激すれば煙草を喫んで黙して語らず、落ち付いて來れば靜かに力強い低聲で、諄々として情理を説いてゐたが、後には話しが全く落ち付いた實質的な接渉になつて、交渉委員達も相當納得して歸つて行つた。

ところが、之と反對のことが某社の争議の場合にあつた。それは勞資第一回の接渉前に於て、經營者側も従業員の穩當な要求を無理からぬこととして、相當の讓歩をして圓滿手打ちをする



やう、經營者側を代表する支配人に命じてあつた。ところが其の支配人といふ人が、非常に感情の強い主我的な人物であつたので、相手の思ひ詰めて來た昂奮状態に、自らも亦已れを見失ひ、互に激越な調子になつて遂に喧嘩別れになつて終つた。

斯くして起らないでも済んだ争議を起さして、勞資共に相當の痛手を蒙つたが、従業員は會社の無理解を、會社は従業員の無暴と非常識を互に責め合つてゐた。この争議など中間に立つて事態を拾收すべき支配人の頭の働き如何で何うにでもなるものであつた。

その場に臨んだ事情や、相手の氣持の動き、その考への所在などテンデ考慮の中に入れて、只、自分の主観的な氣持や考へのみ相手に押しつけてゐては、まとまる話もまとまらなくなつて來る。此方の立場や氣持を納得させようと思へば、一應は相手の立場も認め、その氣持も聞いてやらねばならぬ。だが、斯うした交渉の成否は、多分に人的要素にあることは否めな

## 勞資融合の根本基調

### ●勞務管理の根本精神

前項争議對策編に於て、争議勃發後に於ける對策は抹梢的對策であつて、争議對策の眞諦は事前に於ける對策、即ち、平常に於ける勞務管理の整備徹底にあると述べたが、では勞務管理の根本精神並に其の内容は如何なるものであるかを明かにするに當り、先づ勞務管理の實踐舞臺に於て、多年苦勞研鑽されつゝある數氏の體験的意見を紹介し、其上聊か筆者の卑見を開陳して見たいと思ふ。

昭和十一年十月號社會政策時報の紙上に於て、宗近鵬介氏は「炭坑地方の勞務管理」なる題下に「勞務管理と云ふ言葉の意味は之を使ふ人によつて多少の差があり、必ずしも一定して居らないやうであるが、私は大體左の三者を實現するための方法施設を指稱するものと考へてゐ

る。

(1) 労働者をして、経営者の希望する目的通りに、最高の能率を發揮して勞務を提供せしむること。

(2) 経営者と労働者間の意去疏通を圖り、労働者が衷心より喜んで経営者の主義方針に共鳴信頼し、事業と一體となるやうに、勞資間の融合平和を確保すること。

(3) 労働者を人として又社會人として完成せしむるやう助力すること。

右の内(1)は労働者を勞務の提供者としての立場より見た管理であつて、最も根本的のものである。此の中には雇入、解雇、賃銀其他の諸給與、勞働時間、移動缺勤、拔擢表彰、扶助、賞罰、警備、勞働力の保持増進(災害防止、保健衛生、生活の安定等)教育と云ふ重要問題を含んでゐる。(2)及び(3)は労働者を人としての立場から見た管理であつて、労働者の社會的地位が向上し、企業の公的性質が強調せらるゝに連れて、漸次其の重要性を増して來たのである」と云つてゐる。又、同紙上「三井三池に於ける勞務管理」なる題下に、渡邊徳次氏は勞務管理の根本精神に就き左の如き見解を述べてゐる。

「その根本精神とする處は、事業の繁榮と大衆の幸福増進、而して結局に於て、産業報國以つて國家の興隆と人類の福祉に貢献するにある。即ち總ての従業員がその家族と共に、樂しき

家庭を建設し、經濟的にも精神的にも安定せる生活を享受し、何より先づよき人間となり、忠良なる國民となり、我が建國の大精神、維神の大道に基き皇室を中心として國家の理想に向つて、勞資渾然一體となり協心戮力、以つて産業報國の責務を果し得る様各人の人格を完成し、これにより安全にして能率よき産業人として十分なる活動をなさしむるにある。一營利會社と雖も目前の利益にとらはれず、國家の社會政策の一部分を分擔し、社會の改良國民の幸福増進に向つて精進し、國家の理想達成に協力するに非ざれば、現在の資本主義經濟組織に依存する社會の維持を主張することは出來ないであらう。

従つて管理の對象は單に従業員のみならず、その家族の總てに及びその内容は單によき給與を講ずるのみならず、生活の各方面に亘りあらゆる世話指導を行つて居り、之に従ふ勞務員は、極めて献身的であり、夫婦喧嘩の仲裁もやれば一般人事の相談にも應じ、又時には戀の取持ちさへやるといふ狀況である」云々。

更に同紙上、岡部鐵工所々長岡部繁氏は「工場經營の上に最も大切且つ難事とされてゐる事は勞務管理である。何故に勞務管理が難事とされてゐるか。それは單なる理論的の事のみでは勞務者は働かない。單なる形式のみでも働かない。單に物質を多く與ふる事のみにも働かない。單に福利施設をするからと云つても働かないといふ現實の事實が問題である。要は實際に

現はれることではなければならぬ。精神が籠つて居らなければならぬと言ふ事である。其の精神の籠ると言ふ事は利那的のものでは駄目であり、利己的のものでは尙更駄目である。

然らば如何にすればよいか。要は工場が道の工場になる事である。國家に御奉公の出来る工場である事、即ち國家を中心として互に心を結び得る工場である時に初めて勞務管理の要諦、勞務管理の根本精神が確立する事が出来る。云々と言つてゐる。

以上の諸氏の意見を綜合して、其處に見出さるゝ一貫した精神は、勞務管理の根本精神が單に勞務者を機械視し商品視することなく、對等の人格として之を認め、勞務者も亦共同の産業維持者として、國家産業の興隆といふ大乗的な目的精神の下に、各々の職分と役割と地位に於て、勞資渾然一體となり協心戮力することを念願し、企圖し、實踐せんとしてゐる點である。

然して國內的情勢に於て、又國際的情勢に於て、今や國家の總ての部門に亘つて一大革新の機運に迫られてゐる今日、國家産業に於ける勞資の和合協力が國家の産業的發展の上から力強く要求されてゐると共に、産業上に於ける勞働者の地位が向上し、企業の公的性質が強調されるに連れて、勞務者が單に勞務の提供者としての境遇にとゞまることをゆるさぬ時勢となつたのである。

### ●勞働生活の向上と勞働組合

勞務管理の精神と極めて對蹠的立場にあるものは、勞働組合の指導理論である。勞務管理の精神が、勞資兩者の平和と幸福、延ては國家産業の興隆にあるに反し、階級的勞働組合は資本家經營者の説く勞資の和合協力は、資本家階級の誤魔化しであり懐柔策であるとして之を拒否し、一方的に勞働者の幸福と向上のみ主張するのである。

では、今日の經濟機構の下に於ける勞働生活の向上と幸福の増進は、果して勞働組合の力によるに非されば爲し能はないものであるか何うか、大いに検討し闡明する必要があると思ふ。此事に對し日本海員組合の米窪滿亮氏は次の如く論じてゐる。即ち「勞働者の生活を擁護するものは資本家階級でもなく、さりとて勞資協調、家族主義、温情主義の煙幕の下に資本家擁護の正體をカムフラージュしてゐる、所謂御用團體又は會社組合でもない。勞働者の生活を擁護する最後の要塞——それは實に組織されたる勞働者の團體、即ち既成勞働組合の全國的擴大強化の外にはない」と。

これに對し闘争的勞働組合を否定する資本家、經營者側の人達は「勞働組合は資本主義經濟

組織より必然に発生したといふよりは、寧ろ外國模倣の産物である」と云ひ又「労働組合が資本家に對する自己権利の擁護、又は主張貫徹の一威力となすならば、それは融和の機關にあらずして鬭争對抗の機關に外ならない」から反對であるといふ。

労働組合が資本主義經濟の缺陷に基く必然の産物であるとしても敢て差支へないと思ふ。今日の資本主義經濟が、國家社會の萬人の生活を不公平なく保證安定せしめ、且つその運営に當つて聊かの無理と缺陷も生じなかつたとするならば、其れを否定し對抗する運動が発生する根據がない筈である。既にそれを否定し對抗して、自らの生活を防衛向上せしめんとする運動の発生した事は、資本主義の缺陷に基く必然的なものと見るべきである。だが問題は必然必ずしも善ではないといふ事である。

例へば降雨が続いて河水が氾濫することは之は自然必然の理である。が然し河底を穿堀し、堤防を構築して河水の氾濫を防ぐ事は、自然を克服利用して生活する人間生活にとつて、善なる行爲でなければならぬ。これと同様に人類社會の經濟生活の發展過程に於て発生した資本主義經濟組織に缺陷と不合理を生じ、其處に階級對立の労働運動が起つて産業平和を紊し、その興隆發展を阻害するやうになつた場合、進んでその缺陷と不合理を除去し補つて、勞資の關係を合理化し、より大にして、より盛んなる國家産業の興隆を期することは、聰明にして勇氣

ある産業人として當然なさなければならぬ善なる行爲である。

これは資本主義の否定でもなければ、肯定でもなく、又、單なる妥協的勞資協調でもない。勞資の對立鬭争を前提とする労働組合が、今日の如く労働層の中に深く浸潤して行つた事は今日まで資本家階級の多くが、經濟制度の缺陷より生ずる労働生活の不安と窮乏化を放任して一人高閣を運んで安逸をむさぶつてゐたといふ罪もあるであらうが、半面に於ては、労働者御互の生活を擁護改善しようといふ、労働者の素朴單純な生活意識を、階級的鬭争意識にまで發展固定せしめた、公式的労働運動指導者の罪でなければならぬ。

では、勞資は永久に交叉することのない並行線上に對立するものであるだろうか。これに對して筆者は、産業・生活の抑々に於て、勞資は渾然一體となつて融合協力すべく約束づけられてゐるものと信ずる。即ち、勞資の融合協力は産業上に於て本質的なものである。

何故なら、云ふまでもなく資本は労働をまつて始めて生産的なものであり、同時に労働は資本をまつて始めて生産的なものであるからである。今日の經濟組織の下に於て、富の生産の爲には、資本家は労働者なしではゐられないし、又、労働者は資本家なしではゐられない。即ち富の生産に當つて、勞資は是が非でも一體とならなければならぬ様に約束づけられてゐるからである。

只、此處に富の配分に當つて聊か問題が起つて来る。云ふまでもなく事業經營によつて生ずる利潤は、資本、經營、勞働の三者に依存するものであるから、其の各々が「適正」なる配分を受けなければならぬ。では、適正なる配分の標準を何れに求むるかについては、各々の立場に従つて相當の説があるであろうが、然し國家産業の興隆を第一義として考へる場合、經營の可能な範圍に於てのみ配分の「適正」が期せられることは當然である。

勞資は、その生産關係の抑々に於て一體となるべき約束のものである以上、當初から相互的に或る道徳的義務を負担してゐるものである。此の義務は決して一方的なものでなく、實に相互的なものである。故にその配分の「適正」は勞資相互の誠意と信頼にまつの外はない。

只、此處に最も遺憾とされることは、事業經營の上に於て、勞資相互の信頼を強め、誠意を相通せしめる相互的機關の設置が、未だ一般事業經營者に顧みられず、従つてそれが有効に運用されてゐない事である。若し、この産業、生産の關係に於て、本質的に一體とならなければならぬやう約束づけられてゐる勞資の關係を、一層圓滿に緊密に、只つ合理的にするための勞資の相互機關（これこそ勞働組合以上に勞働者にとつても資本家にとつても必要なもの）が設置され、或はこの機關を通じて、事業經營の状態や、事業經營の理想が、大膽に率直に公明に指示されて、事業經營に於ける勞働者の積極的な熱意と共鳴とが求められたならば、勞働者の

資本家、經營者に對する猜疑と、誤解と、憎惡の感情は一掃され、それより起る諸々の勞資間の忌はしい確執、葛藤は除去し得らるゝであらう。

斯くして、勞資は渾然一體となつて國家産業の興隆といふ第一義的目標に向つて、まつしぐらに協心戮力することが出來得る。

斯くして、持ち來される産業平和は、既に利害の相反を豫定しての妥協的協調主義ではなく又、勞資の停戰協定による一時の武裝的平和でもない。消極的には産業、生産に於ける本來の關係に歸り、又積極的には、國家國民の産業的理想を目指しての前進的共力であり融合である。然して、勞働生活の向上とその幸福の増進とは、對立的闘争的勞働組合の力に俟つまでもなく、組合指導者達が、今日御用團體なりとして非難排撃する、工場委員會や會社組合などの勞資の相互的機關の機能を、有効に合理的に運用し、發達せしめることにあると信ずる。

### ◎ 工場委員會の理論と實際

工場委員會の制度は、勞務管理の分野に於て最も重要な役割と地歩を占むるものであつて、その根本思想は、理論と實際の二方面から觀察して左の四點を擧げることが出来る。

(一) 工場委員會制度の根底をなす主なる思想は「産業立憲」の思想である。即ち、政治上の立憲政治に對し産業上にも、亦之を及ぼし、以つて從來の封建的、階級的觀念を緩和せんとするものである。

(二) 労働問題の解決は、産業經營に労働者を参加せしめて、經營の社會化を圖ることが當面の解決策であると考へらるゝに至つたこと。

(三) 産業上の争議の大部分は既述の如く、勞資双方の接觸する機會少きがため、兩者の感情の疎隔、無理解がその原因となることが多い。此の意味に於て工場委員會制度は、謂はゞ上意下達、下意上達の機關とも謂ふべく、延いては勞資兩者の意志、感情の疏通機關ともなる。

(四) 労働者の作業能率は、彼等が自分も亦、産業の組成分子であり、共同支持者の一人であるといふ自覺を持つ場合に於て最高の技倆を發揮し、最大の努力を拂ふに至るものである。

我國に於ける工場委員會の組織は、未だ一般事業經營者の採用する處とならず、僅かに少數の大工場に於て採用されてゐるにすぎないといふ未發達の状態にある。従つて、未だ其の普及發達の過程にあるものであつて、完備せるものとは云ひ難いが、然し、勞資間の諸問題に對し

確執なく、犠牲なく、靄然たる寮團氣の下に解決しつゝある建設的な其の實績に至つては、闘争對立を前提とする労働組合の遠く及ぼないものがある。左に工場委員會の實際に就て簡単に二三紹介して見よう。

### ◇三井鑛山會社共愛會

#### 一、目的

會社と協力して事業の發展を圖り組合員の幸福を増進するを目的とす。目的達成のために、慶弔、贈與、共濟、風紀、衛生、教育、金融、娛樂、會社施設の改良提議等の事業を行ふ。

#### 二、構成

會社所屬労働者を以つて組織す。但し職員を組合の賛助員たらしむる事を得。

#### 三、役員

組合長一名、副組合長二名、相談役若干名、總代若干名。

#### 四、財政

組合員賛助員の掛金、及會社の補給金を以つて資金とす。

組合長は會社職員中適當なる人に依頼し、勞務管理の主任を以つてするを通常とする。組合副會長の内一名は總代會に於て、従業員たる相談役中より選出せられたる總代會議長を以つて充て、他の一名は組合長推薦の相談役の互選による。

相談役は、總代の互選を以つて總代人員の二分の一乃至三分の一を標準として選舉し、別に其の相談役半数に相當する相談役を會社職員中より組合長が推薦する。

總代は純然たる普通選舉により、總ての組合員の投票により選舉する。選舉は全然自由で一切の干渉をしない。被選舉資格には滿一年以上勤續の成年組合員たる制限あるも男女の別を問はない。主として職別によりて定められた選舉區に従ひ、組合員三十人内外毎に一人の標準割合を以つて、無記名投票によつて選舉する。

相談役は相談會を組織し、總代は總代會を組織する。相談役會は勞資双方の代表者を以つて組織する勞資聯合委員會であり、總代會は大正十三年の改革により生れたものであつて、勞働者の代表のみの會議である。兩會議の並存は、勞働委員會の一元制及び二元制の長短相補ひ兩者の妙味を發揮せしむるの意圖に出づものと云はれてゐる。

## ◇三池共愛組合の事業

### ▲共濟事業

之は我國に於ける此種團體の何れもが大小とも實施するところで、共愛組合でも當初から直接組合事業として、各項に亘り詳細なる申合を作り共濟を實施してゐる。三池共愛組合では、設立以來最近までに、約百萬圓程支出してゐるが、その大部分は家族の共濟に充てたものである。

### ▲購買組合

共愛會が母體となつて之を經營してゐる。三池のは産業組合法による法人組織であつて、職員を含む全従業員が、一口五圓の出資者となつてゐる。大體年額三百萬圓の物資を取扱つてゐる。原價販賣を立前としつゝ尙毎年、出資者への配當と、購入高に應ずる割戻とを幾らかづゝ行つてゐる。此の購買會が無かつたならば、三池一万人の従業員は年間百萬圓外の支出増加を餘儀なくされるであらうと云はれてゐる。のみならず此購買組合品の安いことが、其他の住宅費、教育費、醫療費、娛樂費等の低廉、又は不要と相俟つて、推算三池に於ける月收四十圓の生活は東京の倍額八十圓に當ると云はれる。

### ▲金融組合

三池共愛會では十年來小規模の金融をやつてゐたが、當初は遺方が杓子定規式で運用の實が擧りかねた

四五年來多少の便法を購じて、勞働者を苦しめる悪辣な高利貸からの救済に着手した處、救はれた勞働者は實に感謝の涙を流した。此經驗から昭和四年二月、三池の各共愛組合は一萬五千人に對し一人十圓の見當で、會社の福利共済資金から合計十五萬圓を借受けて、大規模に高利貸からの救出方法を敢行した。昭和六年度の成績によると、借金の肩替り九萬三千圓、本人及近親の病氣療養費充當四万四千圓となつてゐる。此十五萬圓と購買組合の益金七万圓の寄附金で、三池共愛金融組合といふものが設立された。

(昭和十三年三月より十一月二ヶ月間に至る共愛組合處理事項分類表)

問題解決	承認		不承認		一部又は修正採用		留保	撤回	計
	件数	金額	件数	金額	件数	金額			
賃銀賞與手當に関する件	一三	一一三	一四	一一二	二	一八	一	四八	
作業施設に関する件	一一二	一一二	一一二	一一二	一五	一八	一	四七	
福利並に生活施設に関する件	五七	五七	一三	一三	八	一	一	一〇三	
醫療及健康保險に関する件	一四	一四	七	七	二	一	一	三三	
購買組合に関する件	一	一	一	一	一	一	一	三	
金融組合に関する件	一	一	一	一	一	一	一	一	
副業組合に関する件	一	一	一	一	一	一	一	一	
其他諸取扱ひに関する件	三三	三三	一〇	一〇	一	一	一	七九	
組合自體に関する件	五七	五七	五	五	一	一	一	七八	
計	二九四	二九四	六八	六八	四〇	一〇四	七	五一三	
割合	五七・三	一三・二	七・八	二〇・三	一・四	一〇〇			

### ●某社工友會

此社の工友會は、三井共愛會の組織と大同小異のもので、特に異つた點は見出せないが、然し三井等の大事業會社に比し、寧ろ中小工場とも目すべき同社が、進んで此種の進歩的組織を採用した事は、相當の英斷といふべく、九州に於ける中小工場としては其の事例が非常に珍しい。特に昨十一年末の爭議直後に於て此組織を採用し、目覚ましい實績を挙げつゝあることは注目しに價ひする。

從來、温情主義をもつて永く従業員に臨んで來た同社に於ては、待遇上の條件も比較的良好で、従つて勞資相互の關係も極めて靄然たる雰圍氣の下にあつたが、近年に於ける同社の異常なる發展膨脹に伴ひ、急速に従業員の増加を見るに及んで、とかく、勞資間の意志の疎通を缺き、種々の誤解を生んで遂に爭議を惹起するに至つたものである。

同社の首脳部に於ては、兼て従業員の福利施設其他に就て大いに考慮しつゝあつたが、之を如何なる組織形態の下に具現するかに就ては、未解決のままになつてゐた。が然し、爭議後に於て、同社勞務課員が一致して、之が研究と具體化に努力した結果、遂に短時日にして今日の



如き優秀なる實績を擧ぐるに至つたものである。以下、工友會々則の一部並に同社勞務部金融相談所規定を抜録して、同社の勞務管理の一端を紹介したいと思ふ。

### ◇工友會々則（抜録）

#### ▲目的

本組合は會員の人格修養幸福増進を圖り以つて會社の健全なる發達を期す

#### ▲事業

本會は前條の目的を達する爲左の諸件を行ふ

- 一、共濟 二、福利増進及生活の向上に關する件 三、修養、風紀、衛生に關する件 四、能率増進及災害防止に關する件

#### ▲役員

- 一、會長一名 二、副會長二名 三、相談役若干名 四、委員若干名 五、顧問當社重役

#### ▲役員選出の方法

會長は當社勞務部員を以つて之に充て、副會長は相談會の互選、但し、内一名は會長推薦の相談役中より互選。相談役は委員中より、無記名投票により互選。但し該相談役數と同數の相談役を職員贊助員中より

會長之を推薦。委員は滿二ヶ年以上勤續し處罰を受けたることなき會員中より無記名投票選舉、役員任期は會長を除き一ヶ年

#### ▲委員會

委員會は本會事業の達成に必要と認むる事項に付調査審議し其の決議を相談役會に提出す

#### ▲相談役會

相談役會は會社及會員相互間の理解と信頼に基き、委員會又は會社より提出の議案に付懇談熟議を重ね以つて之を處理す

#### ▲會計

經費は會員の掛金及是と同額の會社補助金を以つて之に充てゐる

#### ▲共濟其他

會員共濟としては、死亡、業務負傷、病氣、天災火災、入營、出征、退職等に對して夫々金員を贈與してゐる

其他會員の修養、研究、娛樂、體育等に就ても、會社が相當の費用を補助負擔して獎勵してゐる

### ◇金融相談所規定（抜録）

- ☑本相談所資金は社の出資を特別會計とし其事業年度は當社に做ふ。貸付利息は資金並に従業員福利施設に充當す
- ☑滿二ヶ年以上の勤続者（見習中の者を除く）にして不慮の事故のため金員を要する場合、勞務部に於て實情を調査し所定の範圍内に於て貸出をなすことを得
- 借用人は完済したる後に非ざれば、連帶借用人たることを得ず
- ☑借用人は連帶借用人二名、借用希望金額返済方法を記入したる所定の借用申込書を各現場主任、製造部長を経て勞務部に差出すべし
- 前項の申込みを受けたる時は勞務部に於て調査審議し、其可否を決す、其承認を得たるものは所定の借用證書を差出すべし
- ☑金融は一人一件に限り、一件の金額十圓以上二十圓也を限度とす
- 借用人は借用金額を完済したる後に非ざれば再び借用を爲すことを得ず
- ☑連帶借用人は本社従業員にして滿二ヶ年以上勤続者にして、本相談部より借用し居らざるを要す
- 連帶借用人は借用人を通じて二名を超へ連帶借用人たることを得ず

- ☑融通期間は五ヶ月を限度として、貸出しの翌月より貸金を所定融通期間の月數にて除したる均等額を償還するものとす
  - ☑融通金の利率は月六厘とし貸出しの翌月初、現在額に應じて計算し元金償還の都度之に加算して徴收す
  - ☑貸付金及利息の回収は毎月借用人の給料より償還所定額を控除し領收書を發行せざるものとす。若し控除不能の時は連帶借用人より控除す所定の償還金額に不足を生じたるとき亦同じ
  - 前項に依るも尙不足を生じ、又は控除不能の時は會社より支給せらるゝ給與金若しくは其債權に相當するものに付前項を適用す（以上全文に非ず）
- 尙、同社の金融相談所は目下小規模に且つ試験的に實施中のものであつて、従つて規約も固定したるものではなく、今後の試験的結果に俟つて、金額並に運用の方法に就ても改善變更せられるものである。が然し現在の規模内容のものに於ても、一般従業員は其の金融の便益に大いに感謝してゐる有様である。

（後記）九州各地の工場、鑛山、運輸關係に於ける勞務管理の實際並に工場委員會の實情等に就ての資料を蒐集してゐるが、出版の都合上筆者關係の雜誌に纏めて發表することにした。

# 日本労働組合運動小史

一、發生時代

二、沈潜時代

三、復活時代

四、サンヂカリズム全盛時代

五、サンヂカリズム凋落時代

六、ボルセビズム發展時代

七、極左翼潜行時代

八、國家社會主義擡頭時代

九、日本主義擡頭時代

一 發生時代

我國最初の労働組合 日本に於て資本主義が一應の發達を見たのが日清戰役後のことであるから、労働運動の發生も大體に於て其の頃以後のことであると見て大過ないのである。

尤も是より先、既に明治十六年失業車夫によつて組織せられた「車界黨」(東京)なるものがあり、又明治廿二年六月には、鐵工によつて「同盟進工組」東京と稱する労働組合も組織せられがそれ等は労働者自身の無自覺が因で創立後間もなく自ら解體した。

然し明治三十年七月、片山潜一派によつて「労働組合期成會」が創立せられ、現代的社會認識の下に労働組合の組織並に労働者の思想的教育運動を行ふに至つて、次第に労働運動の發展を見るに至つた。

我國最初の労働雑誌

我國に於ける最初の労働雑誌(労働世界)が發刊せられたのは明治三十年十二月のことであり、最初の労働組合宣傳文書であると云はれる「職工諸君に寄す」(職工義友會刊行)といふ檄文が出たのも同年四月のことに屬し、大規模なものとしての最初のストライキは翌年二月に起つてをり、又示威行進の嚆矢も翌年四月に行はれ、その時参加労働者が唱和した歌が我國労働歌の最初のものであると云はれてゐるのに見ても、我國の労働運動は日清戰役後にその基礎を置いたと云つて過言でないであらう。

二 沈潜時代

然し明治三十三年「治安警察法」が發布せられたのと、他面我國の産業が異常な發展を續け労働者も亦比較的その恩恵に浴する事が出来たため、其の後労働運動は暫らく沈靜に歸した。唯日露戰役後の反動的な不況時代に足尾銅山、別子銅山及幌内炭山等に大暴動が起つたのは特筆すべき事件であつた。この暴動は無秩序で盲目的なものであつたが、暴動が相當猛烈であつたので軍隊が出動した。

明治四十三年幸徳秋水を中心とする所謂

「大逆事件」が起り、社會主義運動は極度の恐怖を以て迎へられ、全く銷沈したので、労働運動も世間から反感をもつて見られ、全然沈潜して終つた。

### 三 復活時代

大正時代に入つてもなか／＼本格的な労働運動は起らず、依然として沈静状態を續けたと云つてよい。それが再び擡頭し、發展したのは歐洲大戰の終末頃以降のことである。

尤も大正元年八月一日、鈴木文治によつて『友愛會』なる勞資協調主義の小團體が設立せられたことは、それが大正七、八年頃以降強大化し、遂に我國今日の労働運勞の母體となつたものである點に於て特筆せられなければならぬ。

友愛會の綱領は次の通りである。

#### 友愛會綱領

一、我等は互に親睦し一致協力して相愛扶助

の目的を貫徹せんことを期す。

二、我等は公共の理想に従ひ、識見の開発、徳性の涵養、技術の向上を圖らんことを期す。

三、我等は公共の力に依り着實なる方法を以て我等の地位の改善を圖らんことを期す。

歐洲大戰を契機として吉野作造及大山郁夫等の新人學者によつてデモクラシー（民主主義）の思想が我國に紹介せられ、それが社會主義的諸運動に復活の氣運を與へたのである。殊に大正六年『ロシア革命』の成功が報導せられ、續いて大正七年夏には米騒動が勃發して民衆の血を湧かしめたために、労働者の意氣頓に擧り従つて労働運動が再び勃然として興隆し、次第に鬭争的色彩を加へて行つた。

乃ち友愛會は大正八年度の大會に於て、その名稱を『日本労働總同盟友愛會』と改稱する

と共に、從來の協調的態度を改め資本主義に對する挑戰的態度を採用した。該大會で採決せられた主張の内主なる條項を示せば次の如くである。

- 一、労働非商品の原則
- 二、労働組合の自由
- 三、最低賃金制度の確立
- 四、八時間労働
- 五、争議仲裁法の發布
- 六、治安警察法の改正
- 七、普通選挙の實施

### 四 サンデカリズム 全盛時代

好況後の金融恐慌 大正六、七、八年頃に於ける亂調子の好景氣は資本家側を有

頂天たらしめたが、労働階級も亦活氣を呈し従つて労働組合の態度が漸次鬭争的となつたことは前章に述べたとほりであるが、それが勢の赴くところ一層の激越を加へ、ともすれば直接行動に訴へて革命的氣分の昂揚を喜ぶといふ風を生ずるに至つた。その矢先、大正九年春、株式の破綻を先驅として財界は俄然大恐慌に見舞はれ、未曾有の混亂を演ずるに至り、資本家の労働組合に對する態度が攻勢的となつたので労働組合は勢ひ防禦的態度を採らざるを得ざるに至り、争議はその發生件數に於ては減少したが、その手段に於て甚だしく深刻化した。

サンデカリズムは既に大正六、七年頃以降大杉榮、荒畑勝三等によつて研究せられ、又労働者の間に宣傳せられつゝあつたが次第に労働組合の中へ浸潤して行つた。殊に關東方面の組合に於て顯著なるものがあり、普選獲

得運動等の如き政治運動は否定せられるに至つた。

同年二月、九州八幡製鐵所及東京市電に勃發した争議は當時の労働組合の態度を表現せるものとして深刻なものであつた。

最初のメーデー 尙大正九年に於て特筆すべき事項は第一回のメーデーが行はれたことである。此のメーデーは、その際集合せる各組合をして永續的聯合機關として「労働組合同盟」(漸進的な友愛會と、サンチカリズム派の信友會、正進會等との間の不和が原因して翌年消滅)を組織せしめ、組合共同戦線の端を發せしめた。

更に之が機縁となつて同年末各派社會主義者の大同團結たる「社會主義同盟」が組織せられ、労働組合の幹部も之に参加したのは、彼等の思想の左傾化を物語るものとして注目し値するところである。

大正十年に入つて財界は益々不景氣となり労働不安が深刻化したので、闘争手段は眞に激越なものとなり、現實味を持つて労働運動を指導せんとした大學出のインテリゲンチヤは組合運動から排斥せられ、只管直接行動を讚美せんとする風潮が昂まつた。

### 現實化への先驅——知識階級排斥

此の時潮を慨し、友愛會機關紙『労働』(十年一月號)に發表せられたのが有名な棚橋小虎の『労働組合に歸れ』といふ論文である。その要旨は徒らに焦燥的な革命熱に浮かされるのは狂氣の沙汰ではないかと説き、警察官と格闘する一人の勇士よりも穩かな百人の團結した労働組合の方が資本家にとつて恐ろしいのだと述べ、労働者の自重と、労働組合運動の現實化、漸進化を要望したものであつたが、これがサンチカリスト一派(大杉

榮が頭目)の反擊を買ひ、智識階級は革命よりも組合を大切にすのだと非難せられ益々智識階級排斥の熱を昂めた。鈴木文治すら總同盟の會長辭任の議が起つた程であるからそれによつても當時の事情を大體察知することが出来よう。

大正十年一月足立鐵工所に勃發した争議は此の風潮を代表的に表現した争議で工場は、争議團のために襲撃せられ、機械廿餘臺が全部破壊せられ、工場長や事務長が殴打せられたものであつた。

## 五 サンチカリズム凋落 時代並現實化時代

總聯合組織運動の決裂 斯かる風潮の中に歐洲大戰の反動としての不景氣は

益々深刻化し、組合運動は次第に不利となつてゆくのので、各組合の間に戦線統一の必要が唱へられ、それが具體化して大正十一年九月三十日、大阪天王寺公會堂に集合して『労働組合の全國的總聯合』組織のための協議會を開催する運びとなつた。

當日參會した團體は約六十を算したが、その主なる團體を擧ぐれば

- 『總同盟』
- 『向上會』
- 『信友會』
- 『正信會』
- 『機械技工組合』
- 『本芝労働組合』
- 『大阪鐵工組合』
- 『純労働者組合』
- 『造船船工労働組合』

等であるが、その内信友會以下の各組合は當時の所謂反總同盟系の團體であつて、總同盟側がマルキシズム系立場から『中央集團的統一』を主張すれば、反總同盟側はサンヂカリズム系立場から、『自由聯合主義的統一』を主張するといふ有様で、遂に會場が混乱したため、解散を命ぜられ總聯合は不成立に終つた。當日は社會主義者が多數會場傍聴席に陣取つてゐたが、總同盟側に味方するものとしては共產主義者と呼べる、堺利彦、山川均等の顔が見え、反總同盟側に味方するものとしては無政府主義者と呼べる、大杉榮や岩佐作太郎等の顔が見られた。

### サンヂカリズムからマルキシズムへ

此の頃から後、次第に現實的政治的運動が重要視せらるゝに至り、サンヂカリズム系組合運動は次第に凋落し初め、

更に大正十二年の大震災に際し大杉が殺害せらるゝに及んで全く凋落し、次第にマルキシズムが組合運動の指導精神となると共に政治行動が重要視せらるゝに至つた。

### 總同盟の方向轉換

蓋し、大正十二年、山本内閣が普通選挙の實施を聲明したこと及、大正十三年劈頭、英國労働黨内閣が成立した等の事實が我國の社會運動家の頭を刺戟した影響によるのである。以上のように、大正十三年の大會に於て、總同盟は有名な『方向轉換宣言』を發表した。此の氣運を導いたものは大正十一年八月、山川均が左翼社會主義者の機關誌『前衛』(大正一一、二創刊)誌上に發表した論文『無産階級運動の方向轉換』であると云はれてゐる。該論文は、空漠たる革命行動に陶醉せんとするサンヂカリズム的運動からの袂別と、組合運動を大衆化、

現實化せしめ、社會的にも經濟的にも實質的効果のある運動たらしめねばならぬといふ意味を論じたものである。

## 六 ボルセビズム 發展時代

### 總同盟の第一次分裂

總同盟が大正十三年の大會で現實化(普選實施後の選挙權行使を中心題目とす)を宣言したことは當時既に相當の成長を遂げてゐた總同盟内の左翼たるボルセビズム系一派をして不滿を抱かしめ、兩派の對立は日と共に深刻化し、遂に大正十四年春の大會に於て大分裂を遂げ、分裂組は同年五月廿四日『日本労働組合評議會』を組織するに至つた。

總同盟内の左翼を形成するものは、主とし

て關東方面の組合であつた。今兩派の主なる中心人物を擧ぐれば次の通りである。

殘留組(日本労働總同盟)

- 鈴木 文治 藤岡 文六
- 上條 愛一 松岡 駒吉
- 西尾 末廣 麻生 久
- 望月 源治 大矢 省三
- 淺原 健三

分裂組(日本労働組合評議會)

- 野田 律太 鍋山 貞親
- 三田村四郎 山本 懸藏
- 青柿善一郎 板野 勝次

### 左右の抗争

而して此の總同盟の分裂は、又諸他の組合の分裂を誘起し、正に分裂時代を現出した觀があり、左右の對立は次第に激化し、互に惡罵を投げ合ふに至つた。

此の傾向のために大正十四年夏頃から提起せられた無産政黨組織運動も難澁に陥り、折

角設立した「農民労働黨」も即日禁止せられたのである。

爲めに大正十五年三月五日「労働農民黨」が組織せられた時には評議會等の左翼分子は除外せられたのであるが、左翼一派の活潑な策動の結果、同年秋頃には却つて右翼が逐ひ出され、労働黨は完全に左翼一派の掌裡に歸したのであつた。

### 總同盟の第二次分裂

然しやがて此の左翼の小兒病的、公式的、急進的な態度には賛成せぬが、と云つて右翼のあまりに現實的な態度にも嫌らなさを覺える一派が總同盟の内部に發生し、それ等は再び總同盟から分裂して大正十五年十二月九日「日本労働組合同盟」を創立し、中間派を形成した。即ち總同盟は茲に第二次の大分裂を行ひ、左翼と中間との二派を生み出したのである。爾來此の三派對立の形勢が持續せられたの

であるが、昭和三年三月十五日、日本共產黨が一齊檢舉せられるに及んで、四月十日「日本労働組合評議會」はその結社を禁ぜられ、合法舞臺から姿を消して終つた。

## 七 極左翼潜行化時

### 代—中間、右翼 結成時代

極左翼派の動き「日本労働組合評議會」の結社禁止によつて極左翼派は表面上消滅したが、その後間もなく、彼等一派は之が再建運動を企て、遂に昭和三年九月「日本労働組合全國協議會準備委員會」(略稱全協)を組織し同年十二月廿五日之を確立したものである。

### 中間派の結成

我國經濟界の不況は昭和二年春の金融恐慌以來益々その深度を高めつゝあつたが、昭和三年春、極左翼に屬する三團體が結社禁止を命ぜられ、又一般に資本家階級の自衛手段が積極的となつたため、労働組合も自然戦線の統一を策する必要に促され、中間及右翼を通じて戦線強化のための結成運動が起つたのである。即ち中間派に屬する「日本労働組合同盟」及「日本労働組合總聯合」に於ては、昭和三年春以來、労働組合の全國的戦線統一の運動を起し、同年七月十五日「全國労働組合會議組織準備會」を組織した。本準備會には右翼及無政府主義系團體を除き、最初は二十五團體の代表者が参加し、後には四十二團體の代表者が参加したが次第に左翼派の活躍が露骨となり、遂に確立を見ず、流産して終つた。

### 右翼派の大結成

右翼派を代表する社會民衆黨系組合に於ては昭和三年二月の衆議院議員總選舉に於て、同黨が四名の黨選者を出だして斷然他派をリードしたので、右翼の黄金時代到來として雀躍しつゝあつた矢先同年四月、極左翼組合たる「評議會」が結社を禁止せられた爲、益々右翼運動發展の便宜を得たる形となり、次第に組合員増加の傾向を見せつゝあつたが、同年末、國際労働事務局長アルベル・トーマの來朝の報に鼓舞せられて愈々右翼大結成の運動を起し、日本労働總同盟をはじめ、日本海員組合、官業労働總同盟、海軍労働組合聯盟及海員協會の五團體は同年十二月五日「労働立法促進委員會」を組織した。

### 總同盟第三次の分裂

然るに昭和四年九月、日本労働總同盟に第三次の分裂騒

ぎが起り、同月九日大阪聯合會中の左翼分子たる大矢省三、山内鐵吉及山口常次郎等によつて、新に「労働組合全國同盟」なる組合が創立せられた。

労働組合全國同盟は創立計畫中から組合同盟(全國大衆黨系)と款を通じてゐたが、遂に翌五年六月兩者は合同し、代表的中間派組合『全國労働組合同盟』を組織した。

### 日本労働俱樂部の結成

日本労働俱樂部の結成右翼組合戦線の統一に就ては上述の如く、共産黨大檢舉後、總同盟及海員組合を中心として着々として進められ、昭和三年末には「労働立法促進委員會」の設立を見たのであるが、更に海員組合の提唱により昭和六年六月廿五日「日本労働俱樂部」なるものが設立せられた。

日本労働俱樂部に参加せる組合名、加盟條

件及目的は次の如くである。

#### 参加組合

- 右翼派
  - 日本海員組合
  - 日本労働總同盟
  - 官業労働總同盟
  - 海軍労働組合聯盟
  - 海員協會
- 中間派
  - 全國労働組合同盟
  - 日本労働組合總聯合會
  - 日本労働總聯盟

#### 加盟條件

- (一) 健全なる労働組合主義を以て指導精神とするもの(共産主義、無政府主義、フアンズムなどの指導精神に反對する)
- (二) 國際労働機關そのものに反對せざるもの

#### 目的

- (一) 親睦融和のため必要なる意見交換
  - (二) 社會立法の制定並改善に對する協議
  - (三) 國際問題に對する態度の決定
  - (四) 労働時間最低賃銀團體協約などの基礎的條件に對する意見の交換
  - (五) 構成團體の争議に對する態度の決定
- 日本労働俱樂部は、先づ右翼大結成運動の進展として注目を要するものであるが、それと同時に、同俱樂部に對し、従前總同盟一派と對抗の形に在りし中間派組合たる全國労働組合同盟の外二組が、上掲の通り参加した點に於て、一般社會運動界に大なる波紋を投じたのである。

乃ち、全國労働組合同盟の内部には舊労働黨系一派が蟠居してをり、従來國際労働會議の否認は固より、社會民主主義の排撃を行ひ、共産主義讚美の口吻を洩らしつゝあつた

こととて、同盟の幹部が俱樂部参加を決定したことに對し反對氣勢を煽りつつあつたが、昭和六年十一月に開催せられた同盟の大會に於て、その衝突が表面化し、加藤勘十を中心とする一派(高梨一男、關家博等)は「労働俱樂部排撃同盟」(後、「全勞統一全國會議」と改稱)なる團體を組織し、幹部派に對抗するに至り、加藤一派は全勞から分裂して終つた。

## 八 國家社會主義 擡頭時代

### 國家社會主義の擡頭

昭和六年九月、滿洲事變の勃發に伴ひ、一般國民の間に國家愛が昂調し、右翼及中間派組合員の間にも「國家社會主義」運動の擡頭を見るに至つた。その代表的組合は阪本孝三郎一派の「日本勞



働組合總聯合』である。

同組合は從來、全國勞農大衆黨を支持してゐたが、昭和六年末その關係を絶ち、下中彌三郎一派と提携して『日本國民社會黨』なる國民社會主義政黨を組織せんとして種々劃策するところあり、他方無產政黨戰線に於ける國家社會主義一派の策動と相俟つて、その影響は相當廣範圍に波及するに至り、労働組合戰線は異常の動搖を演じた。

即ち『全國労働組合同盟』は大矢省三、白鳥廣近、今村等、藤岡文六、安藝盛及山名義鶴等の中堅幹部が國家社會主義派に走り、又『日本交通労働總聯盟』は本部の常任書記として相當勢力ある桑田喜三郎及青忠正等を中心に相當の員數が之に向つて走り、且その中心團體たる東京交通労働組合幹部中にも可成りの共鳴者が發生するに至つた。

### 日本國家社會労働同盟の組織

前記の如く『全勞』内の於ける國家主義的分子は國家社會主義の旗を掲げて分裂するに至つたが、之等の分子は昭和七年五月三十日、東京芝、有信館に於て『日本國家社會労働同盟』(略稱、國社労働同盟。後、日本労働同盟と改稱)を組織し、その前日赤松一派によつて創立せられた『日本國家社會黨』を支持することとなつた。

### 日本労働同盟の創立

國社労働同盟は上記の通り同盟全勞脱退派によつて昭和七年五月組織せられたが、同年十一月二十日に至り芝協同會館に於て正式創立大會を開催し、名稱を『日本労働同盟』と改稱した。役員中、會長及主事は従前と同様であるが、顧問以下の主要人物を示せば次の通りである。

顧問 龍井 四郎 林 癸未夫

を以て資本階級の彈壓に抗争せんことを期す

### 日本労働組合會議の成立

却説既述の如く、昭和六年六月廿五日、右翼労働組合の戰線統一としての『日本労働俱樂部』が結成せられたが、同俱樂部は更にその統一範圍の擴大を策したる結果、昭和七年九月廿五日、同俱樂部の構成團體に一團體(東電従業員組合)が加はり、『日本労働組合會議』が結成せられた。

日本労働俱樂部はその改組に際し、日本交通労働總聯盟の外、海軍労働組合聯盟、東京市従業員組合及日本製陶労働組合同盟等七ヶ團體に對して参加を勧誘したのであるが、指導精神其他の行懸りから、結局之等團體の参加を見るを得ず、殆んど團體名を改稱したと同様の結果に終つたのである。殊に、造船聯盟は、その確乎たる愛國主義的

法律顧問 宇都宮良久 五十嵐治孝  
相談役 山名 義鶴 小池 四郎

中央委員 石川準十郎  
大矢 省三 望月 源治  
藤岡 文六 熊本 與市  
安藝 盛 陶山篤四郎  
山下 榮治 他 六名

### 綱領

- 一、我等は一君萬民の日本建國の精神に基き労働階級の生活を絶對的に保證する擇取なき新國家の建設を期す
- 二、我等は労働組合が資本主義打倒の全面的政治闘争に於ける經濟的部面を擔當することを認識しこれが完全なる使命の遂行を期す
- 三、我等は強固なる團結と勇敢なる戰術と

立場と會議の反國家的主張とは相容れずと爲し脱退して終つた。斯くて現在、會議の構成團體及指導精神は左記の通りである。

組合會議構成團體

- 日本海員組合
- 日本労働總同盟
- 全國労働組合同盟
- 日本労働組合總聯合
- 日本労働總聯盟
- 海員協會
- 官業労働總同盟
- 日本製鐵労働組合聯合會
- 日本港灣従業員組合聯盟
- 東電従業員組合

指導精神(宣言より要約)

一、共產主義排撃

- 二、ファシズム排撃
- 三、無政府主義排撃
- 四、健全なる労働組合主義の把持
- 五、加盟團體相互の融和協力
- 六、相互保險制度、團體協約、労働立法の發達に對する努力、等

總同盟の第二方向轉換 日本労働總同盟は讀者の既に了知せらるる如く、大正元年八月一日創立(友愛會)にかゝるものであるが大正十一年の大會に於て綱領の改定が行はれ稍々左傾化した。

然るに最近我が國內に國家主義的風潮の昂れるに伴ひ、去年(七年)十一月五日、大阪天王寺公會堂に於て、第三次の新綱領を採決した。今參考の爲めに創立當時に於ける綱領並大正十一年採決の綱領及今回の新綱領を採録してをかう。

綱領(創立當時)

- 一、我等は公共の理想に従ひ、識見の開發徳性の涵養、技術の進歩を圖らんことを期す
- 一、我等は共同の力により、着實なる方法を以て我等の地位の改善を計らんことを期す
- 一、我等は互に親睦し一致協力して相愛扶助の目的を貫徹せんことを期す
- 同 (大正十一年採用)
- 一、我等は團結の偉力と相互扶助の組織を以て經濟的福利の増進並に智識の啓發を期す
- 一、我等は斷乎たる勇氣と有効なる戰術とを以て資本家階級の抑壓迫害に對し徹底的に闘争せんことを期す

同 (昭和七年採用)

- 一、我等は労働者階級と資本家階級とが兩立すべからざることを確信す。我等は労働組合の實力を以て労働階級の完全なる解放と自由平等の新社會の實現を期す
  - 同 (昭和七年採用)
  - 一、我等は同胞愛の理想に遵ひ識見の開發技術の進歩徳性の涵養を圖り以て自己の向上と完成を期す
  - 一、我等は労働者の自主的組織と訓練により労働條件の維持改善並共同福利の増進を期す
  - 一、我等は國情に立脚し資本主義の根本的改革を圖り以て健全なる新社會の建設を期す
- 總同盟は、今回の綱領改訂の理由を説明して「舊綱領は未だ無產政黨出現せず労働組合と政黨との職分が混同され勝な時代——思想的にも共產主義が充分把握されず、サンチカ

リズムも清算し盡されず、又健全なる組合主義も確立されざりし時代の産物であつたが、其の後蔭同盟は完全にサンチカリズムを清算し、共産主義を排撃し、健全なる組合主義を確立するに至り、愈々「組合主義」の徹底を期し得る條件が整つたので新綱領を採決した」のだとしてゐる。

### 九 日本主義 擡頭時代

#### 日本産業労働 倶楽部の結成

本倶楽部の中心勢力は石川島造船所の自置組合である。自置組合は、横濱船渠株式會社の工愛會と日本造船労働聯盟を組織し日本労働組合會議の一構成分子であつたが、全國労働組合同盟、東電従業員組合が組合會

議に加盟するに及で、其の指導精神に反對して脱退したのである。昭和七年十二月、友愛團體と共に國防献金協會なるものを組織して献納飛行機基金募集と共に其の主義の宣傳をなした。然しこの運動も翌年四月廿九日の陸軍機、五月廿一日の海軍機献納をもつてその役割を終了することになつたので、當初からの懸案であつた日本主義労働組合の戦線統一を企圖するに至り、六月十五日遂に「日本産業倶楽部」として結成大會を擧ぐるに至つた。この派は日本主義労働組合と稱せられ、産業報國、勞資一體主義を主張するもので、階級闘争主義を否認する點が他の労働組合と異り重要な點である。然して日本労働運動の功績は、我國の一般労働運動に對し、國家的精神を鼓舞した點にある。

#### 組織勢力

#### 加盟組合十六

#### 組合員合數一八、六七八

#### 加盟組合

- 自置組合(石川島造船所、自動車工業會社)
- 工愛會(浦賀船渠會社) 工信會(横濱船渠會社)
- 秀英社労働組合 衛生會、興進労働組合(隅田川製鐵所)
- 港愛會(東京市修築工事芝浦出張所)
- 勇進組合(日本建鐵株式會社) 時工會(シチズン時計株式會社)
- 日本靴工組合(スタンタート靴株式會社)
- 自揚組合(日本鑄鋼株式會社)
- 日石鶴見勞資組合(日本石油株式會社)
- 山中従業員組合(山中アルミニウム製作所)
- 自立組合(谷口印刷所)
- 協進組合(日本製鋼株式會社)
- 清明會(山サ醬油會社)

(註)この派は一工場單位の縦斷組合の形態をとつてゐる。

### 綱 領

- 一、我等は自己の本分を盡して公正なる勞資關係を確立し、以つて産業報國の實を擧げんことを期す
- 二、我等は建國の本義に基き皇道日本の完成を期す
- 三、我等は日本精神に則り和衷協力以つて識見の開發、徳操の正養に努め世界文化に貢獻せんことを期す

### 行動方針

#### 第一産業篇

#### 一、總 則

- 1、道義に基く公正なる労働條件の實現
- 2、勞資の融合に依る日本産業の振興

3、資本主義經濟制度の改善

二、労働

- 1、勞資の職分は産業上の秩序たるに鑑み階級的偏見を去り融合以つて産業の開發に努むべし
- 2、工場委員會の普及徹底を計るべし
- 3、國家の柱石たる産業人としての自覺に徹し自己の職分を完ふすべし
- 4、労働條件の無條件的維持改善を排し其公正を期すべし
- 5、産業人たる信念を堅持し國家と其進運を共にすべし

三、資本浄化運動

- 1、無理解なる資本家に對しては浄化運動を敢行す
- 2、浄化運動の方法は單なる闘争的手段を排除し、至誠以つて心を動かす方法を採

るべし

- 3、資本家が其の本分を盡さざる場合は誠意を以つて其の反省を求むべし
- 4、反省を求めて尙且つ容れられざる場合には已むを得ずして起つべし

四、資本主義改革諸説に對する態度

- 1、一切の非日本の主義主張に反對す
- 2、一切の制度改造萬能論を排す
- 3、資本主義制度の改善は産業精神の振興と相俟つべきを期す

五、他の労働組合に對する態度

- 1、他の労働組合が非難中傷を試みたる際我等は實踐を通じて其の不當なる所以を明瞭ならしめ斷乎として反省を促すべし

- 2、勞資の利害は絶對に一致せずとの迷妄思想を排除すべし
- 3、労働者は闘争によらずんば地位の向上待遇の改善を期し難しとする思想に與みせず
- 4、階級闘争的労働組合員に對しては、意見を異にすると雖も憎惡の心を以つて接せず情誼に基き進退すべし
- 5、意見を同じうするに至らば清明心を以つて和樂同行すべし

日本労働組合全

日本労働組合總評

國評議會の結成

議會(總評)は昭和

九年四月三日の中央評議員會に於て、階級的労働組合の全線的統一へ積極的に乗り出すことを決議し、先づ全勞統一全國會議へ協力を求めたるため、統一會議は七月十一、十二日に開催された全國委員會に於て之を正式に取

扱ひ「總評」と協力して階級的労働組合の全線的統一を行ふことに決定し、これを「總評」に通すると共に、更に江東地方従業組合協議會も之れに如はり、右の團體によつて七月二十三日「戦線統一に關する意見書」を發表し、反組合會議派の二十二團體に對し参加を勧誘した。

其後約三ヶ月間、全國協議會、地方協議會、地區協議會、産業別懇談會等を通じて謂ゆる「組合員大衆の手によつて」の合同を完成し十一月十八日結成大會を舉行した。

此の派はマルクス主義の流れをくみ、國家搾取機關説を取り階級闘争主義を強調する組合であるが、第三インターナショナルとの直接の關係はなく、其れと關係のある日本労働組合全國協議會とは對立の立場にある。其の運動方針を見ると、過去の左翼組合の犯して來た諸種の觀念的傾向を打破すべしとし

「例へば、實踐不可能なる高度の政治的スロウガンを掲げたり、景氣のいゝ階級的言辭を弄して得意となつたり、全協あたりの間違つた政策に對して斷乎鬭争することを躊躇してゐたこと、批判的言辭のみ多く、具體的問題を等閑視してゐた點」を清質せねばならぬとし、現實の諸問題を誤りなく認識して具體的鬭争方針を立てるべきであると述べてゐるが、其行動綱領なるものを見ると依然として空想的であり、觀念的であり、非現實的であることがわかる。

組織及勢力 組合員數一三、〇〇〇  
中央執行委員會委員長 加藤 勘十

### 參加團體名

日本労働組合總評議會(三十六組合)

全勞統一全國會議 (十二組合)  
江東地方從業組合協議會、全勞神奈川縣再建委員會、名港造船工組合、京都紙工勞働組合、京都皮革勞働組合、京都行商人組合、京都土木建築勞働組合、京都履物修繕工組合、關西メッキ勞働組合、西部一般勞働組合

### 日本労働同盟の分解

日本労働同盟は、昭和七年五月、日本國家社會黨の結黨に參刺した労働組合を中心に、同年十一月結成を見た労働組合である。其後國家社會黨内に發生した「日本主義」對「國家社會主義」の對立抗争に依る内紛より、九年四月別個に結成された「勤勞日本黨」の支持團體であるが十月二十九日の中央常任委員會、十一月二日の中央委員會の結果、關東側は全國労働へ、關西側は總同盟へ別々に合同することに決し

更に將來總同盟と全國労働との合同の機となることを申合せた。

### 日本労働同盟の再建

昭和九年秋その關東側は全國労働組合同盟に、又、關西側は日本労働總同盟に各々合同した日本労働同盟は一時殆んど解消の形にありながらも、當時合同に反對せる『滋賀縣聯合會』を中心とする少數者は、勤勞日本黨支持の下に労働同盟中央聯合委員會を組織して舊同盟の孤壘を守つてゐたが、其後委員會が自然消滅せんとする情勢にあつた處、同委員會中心勢力たる前記滋賀縣聯合會が『滋賀労働同盟』と改稱し、國家社會主義の旗を掲げた。

於茲、三月三日東京に於て『日本労働同盟再建全國代表者會議』が開催せられ、茲に再び日本労働同盟の結成を見「所謂分裂合同の危機を切抜けて國家社會主義の聖旗を堅持し

……」云々の聲明書を發表した。

### 新日本海員組合の結成

日本海員組合に於ては昭和八年九月赤松組織部長の辭任に伴ひ内紛を惹起し、赤松一派は組合主腦部に不正事件ありとして告訴を提起し、組合内に革正同盟を作つてより兩派鏖を削つて對立抗争してゐたが、十年五月二十日、遂に革正同盟は「新日本海員組合」を結成するに至つた。その綱領は左の如くである。

#### 綱 領

一、我等は自己の本分を盡して公正なる勞資關係を確立し、産業協力の實を擧げて國家海運の興隆に盡すと共に、鐵の如き團結を保持して海上労働者の福利増進と社會的地位の向上を期す  
一、我等は比類なき我國體を遵守し、合理公正なる經濟的並に政治的行動を通じて全無

新機運に刺戟されて、愛國労働組合が戦線の統一にとりかかった。即ち十年五月日本海員組合から赤松賢藏氏の率ゆる革新同盟が分裂して新日本海員組合を創立し、又、同年九月日本労働組合總聯合は「メーデー廢止、日本産業祭の舉行」を叫んで、日本労働組合會議から脱退した。其外東電愛國同盟、大日本忠孝労働組合、三河愛國從業員組合聯盟の創立など、何れも日本主義の旗の下に各自組合陣容を固め、同時に愛國労働組合戦線統一の運動を始むるに至つた。然して、社會民主主義的労働組合が結成せる日本労働組合會議に對抗するものとして、愛國労働組合全國懇談會を四月十九日東京芝區協調會館で結成した。

加盟團體

『日本産業労働俱樂部』『新日本海員組合』

『日本海上同志會』『日本労働組合協議會』『東電愛國同盟』『三河愛國從業員組合聯盟』『帝國材木産業正義研究會』『愛國材木同志會』『東京花緒生産者組合』『日本労働同盟』『日本主義労働組合中部地方協議會』『日本労働組合總聯盟』『愛國労働農民同志會』『國民生活防衛同盟』  
議長 赤松賢藏 副會長 石井龍藏 今井武吉

綱領

一、我等は日本精神に則し、産業人の結束を促し、産業報國の實を擧げ以つて興國日本の興隆を期す  
一、我等は産業人たる使命に則し、公正なる生産關係を確立し以つて労働者の生活確立を期す  
一、我等は合理的方法を以つて資本主義經濟

制度を革新し、以つて人類文化の發展に貢獻せんことを期す

勞農無産協議會の結成

十一年

五月四日労働組合全國評議會、東京交通労働組合、東京市從業員組合、日本交通労働總聯盟、關東消費組合聯盟、東京自動車労働組合、新興佛教青年同盟、關東地方工場聯絡委員會等合法左翼團體の結成によつて、勞農無産協議會なるものが成立し、『労働者農民の共同闘争により労働組合法、小作法其他社會立法の確立及び無産大衆の經濟的的政治的利害の獲得伸張を期す』云々の聲明を發表したが、此れこそ我國に於ける唯一の合法左翼團體の代表的陣營で従來から問題の左翼側の政治的結合の第一歩と見られてゐる。

産階級の解放と新日本の建設を期す

### 日本労働組合總聯合の轉向

總聯合は日本労働組合會議の指導精神と相容れず、殊に『メーデー』に關して遂に十年は之に参加せず、別個に日本労働祭を敢行したのであつたが、遂に九月二十九日、組合會議第四回大會に於て脱退を聲明した。

總聯合が組合會議を脱退して日本主義の大旗を振り翳すに至つたことは、日本主義労働陣容に千金の重みを加へたものといふべく、日本産業労働俱樂部とに愛國労働運動の中堅勢力となつた。

### 新綱領

一、我等は建國の本義に基き、和衷協同皇道

日本の完成を促し、以つて國家産業の發展を期す。

一、我等は公正なる勞資關係を確立し、労働者の向上を圖り、進んで經濟制度の革新を期す。

一、我等は業を勤み智を磨き徳を樹て、自省以つて人類文化に貢献せんことを期す。

### 全勞、總同盟の合同

### 全日本労働總同盟の結成

昭和十年の春、大阪港南地區の總同盟と、全勞に屬する職場労働者の間から提唱された「指導方針の大差ない總同盟、全勞の兩組合が對立してゐるのは矛盾だ、即時合同せよ」といふ聲が漸次全國的に擴がり、同年六月安部磯雄、高野岩三郎、鈴木文治等労働運動界の三長老の合同勸告乗出しとなり、總同盟側

松岡駒吉、全勞側河野密氏と間に交渉が重ねられた。この兩組合の合同問題は、各労働團體を刺戟して、果然、労働組合陣容の全的合同的機運が高まるに至つた。即ち日本交通労働總聯盟、東京市従業員組合、日本労働組合全國評議會が同年九月、兩組合の合同に参加の意を表したのである。其のうち交總は同年度大會で全的合同的決議をした。その結果十一月十五日の最後の合同協議會で三長老が示した「總同盟、全勞の合同を完成すること並に新組合の成立と共に交總、市從其他可能なる範圍の合同を可及的速に實現するために特別委員會を組織すること」の意見に従ふことに決し、十一年一月十五日ひとまづ總同盟全勞兩組合の合同結成式を擧げることによつて決した

### 新役員

會長 松岡駒吉 副會長 河野密

同 西尾末廣 總主事 菊川忠雄

副主事 原虎一 會計 松岡駒吉

顧問 安部磯雄、高野岩三郎、鈴木文治

### 綱領

一、我等は労働報公の精神に基き、徳性の涵養識見の開發、技術の進歩を圖りもつて自己の完成と社會正義の實現を期す

一、我等は強固なる組織と有効なる手段によつて労働條件の維持改善、共同福利の増進を期す

一、我等は國情に立脚して資本主義の根本改革を促進し、以つて合理的なる新社會の建設を期す

### 愛國労働組合全

### 國懇談會結成

國家社會主義が漸次衰退して、それと入れちがつて愛國労働運動が目覚ましく進出し、社會民主主義的労働組合の戦線統一の

新機運に刺戟されて、愛國労働組合が戦線の統一にとりかかった。即ち十年五月日本海員組合から赤松賢藏氏の率ゆる革正同盟が分裂して新日本海員組合を創立し、又、同年九月日本労働組合總聯合は「メーデー廢止、日本産業祭の舉行」を叫んで、日本労働組合會議から脱退した。其外東電愛國同盟、大日本忠孝労働組合、三河愛國従業員組合聯盟の創立など、何れも日本主義の旗の下に各自組合陣容を固め、同時に愛國労働組合戦線統一の運動を始むるに至つた。然して、社會民主主義的労働組合が結成せる日本労働組合會議に對抗するものとして、愛國労働組合全國懇談會を四月十九日東京芝區協調會館で結成した。

### 加盟團體

『日本産業労働俱樂部』『新日本海員組合』

『日本海上同志會』『日本労働組合協議會』『東電愛國同盟』『三河愛國従業員組合聯盟』『帝國材木産業正義研究會』『愛國材木同志會』『東京花緒生産者組合』『日本労働同盟』『日本主義労働組合中部地方協議會』『日本労働組合總聯盟』『愛國労働農民同志會』『國民生活防衛同盟』

議長 赤松賢藏 副會長 石井龍藏 今井武吉

### 綱領

- 一、我等は日本精神に則し、産業人の結束を促し、産業報國の實を擧げ以つて興國日本の興隆を期す
- 一、我等は産業人たる使命に則し、公正なる生産關係を確立し以つて労働者の生活確立を期す
- 一、我等は合理的方法を以つて資本主義經濟

制度を革新し、以つて人類文化の發展に貢獻せんことを期す

### 勞農無産協議會の結成 十一年

五月四日労働組合全國評議會、東京交通労働組合、東京市従業員組合、日本交通労働總聯盟、關東消費組合聯盟、東京自動車労働組合、新興佛教青年同盟、關東地方工場聯絡委員會等合法左翼團體の結成によつて、勞農無産協議會なるものが成立し、『労働者農民の共同闘争により労働組合法、小作法其他社會立法の確立及び無産大衆の經濟的政治的利害の獲得伸張を期す』云々の聲明を發表したが、此れこそ我國に於ける唯一の合法左翼團體の代表的陣營で従來から問題の左翼側の政治的結合の第一歩と見られてゐる。



昭和十二年七月一日印刷納本  
昭和十二年七月五日發行

【定價壹圓】

不許  
複製

福岡市北高宮三九七

著者兼 福島 茂

福岡市金屋小路三八

印刷人 餅田 勝衛

福岡市金屋小路三八

印刷所 福博製印工廠  
電話五三七七番

發行所

問題通信社

福岡市北高宮三九七

勤勞大衆に健康な魂の息吹を與へる

勤勞讀本

雜誌・産業人

八月號附録

左右超克の愛國勞働運動理論の展開

愛國勞働運動の主張

三錢切手封入

申込進呈

福岡市北高宮三九七

問題通信社

九州水力電氣株式會社

西部瓦斯株式會社

東邦電力株式會社

九州軌道株式會社

福博電車株式會社

九州バス同株式會社

九州鐵道株式會社

延岡電氣株式會社

九州送電株式會社

神都興業株式會社

熊本電氣株式會社

古河電氣工業株式會社

株式會社麻生商店

大日本製糖株式會社

貝島合名會社

臺灣製糖株式會社

淺野セメント株式會社

日本製鐵株式會社

明治鑛業株式會社

株式會社日立製作所

日本ゴム株式会社	三井三池鑛業所
筑後電氣株式会社	三井田川鑛業所
別大電鐵株式会社	三井物産三池支店
昭和電燈株式会社	旭セメント株式会社
九州電氣化學工業株式会社	聯絡自動車株式会社

山陽電氣軌道株式会社	昭和鐵工株式会社
旭硝子牧山工場	株式會社林兼商店
王子製紙株會社	片倉製絲鳥栖工場
九州曹達株式會社	片倉製絲熊本工場
淺野製鋼小倉工場	西松組熊本支店

三井山野鑛業所

不動貯金銀行

早良鑛業株式會社

博濟無盡株式會社

博多灣鐵道株式會社

鐘紡福岡工場

筑前參宮鐵道株式會社

九州郵船株式會社

おたふくわた株式會社

古賀鐵工所

